聖徒の道

6 1997

末日聖徒イエス・キリスト教会

1997年6月号

聖徒の道





表紙

表紙 ニューヨーク州バルマイラ付近にある「聖なる森」、1907年撮影。 裏表紙 上から、1886年、ユタ州マンタイに建設中のマンタイ 神殿。1902年、ユタ州メーブルトンにあったエテル・ブランチャードの農場(本誌「ある田舎町の写真家の夢」p.16参照)。

こどものページ

昔と今の開拓者の子供(イラスト/ジュリー・F・ヤング)

一般

- 2 大管長会メッセージ──「霊は人を生かす」 第一副管長トーマス・S・モンソン
- 16 ある田舎町の写真家の夢 ネルソン・ウォズワース
- 26 すべて理解できました ナタリア・ウラディミロブナ・レオノバ
- 28 「自分の言語で」 カイ・A・アンダーセン
- 34 アイスランド 今も終わらない英雄伝 ディエーン・ウォーカー
- 40 夢が現実になりました マリア・ロシンカルスドティアがディエーン・ウォーカーに語った言葉を基に編集

青少年

- 8 個人の啓示――賜物,試し,約束 十二使徒定員会会長代理ボイド・K・パッカー
- 15 傷ついた出来事を忘れ去る スーザン・ターネー
- 42 牧場鳥 R・バル・ジョンソン
- 44 実在する力 ピーター・ポマート
- 46 50年間守り続けた信仰 ホンザ・トムサ

定期特別記事

- 1 読者からの便り
- 25 家庭訪問メッセージ――従順を通して得られる知恵
- 32 生ける預言者の言葉

こどものページ

- 2 モルモン書物語――イエス、ニーファイ人たちを教え、ともにいのられる
- 5 歌――かしこい人とおろか者
- 6 友だちになろう—インドネシアのヨグヤカルタに住む クリスチャン・ネフィー・スハルトとエルナワティ・スハルト
- 8 分かち合いの時間――よく思いはかり、いのることにより、正しいことをえらぶ カレン・アシュトン
- 10 たんけん――ミズーリでの迫害 シェリー・ジョンソン
- 13 おもちゃばこ
- 14 レース ドナ・ガマッシュ作







読者からの便り

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊 本誌は、末日単従イエス・キリスト教会の公式刊 行物です。本誌は以下の言語で出版されています。 月刊― イタリア語、英語、オランダ語、サモア 語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国 語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、 フィンランド語、フランス語、ボルトガル語、タイ ルウェー語。隔月刊― インドネシア語、タイ語。 季刊 ― チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、 アイスランド語、ロシア語。

大管長会: ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・ロバート・ロ・ヘイルズ、ジェフリー・B・ホランド、ヘンリー・B・アイリング編集長:ジャック・H・ゴーズリンド 顧問: L・ライオネル・ケンドリック、ウィリアム、ロルフ・カー教科課程管理部書任者

教科課程管理部責任者 実務部長:ロナルド・L・ナイトン 企画・編集ディレクター:ブライアン・K・ケ ッー グラフィックスデレクター:アラン・R・ロイ ボーグ

国際機関誌スタッフ

編集主幹:マービン・K・ガードナー 編集主幹補佐: R・バル・ジョンソン 編集副主幹: デビッド・ミッチェル, ディエー

デザインスタッフ 機関誌グラフィックスディレクター:M・M・カ

機関誌グラフィックスディレクター:M・M・カワサキアートディレクター:スコット・バン・カンペンデザイナー:シェリー・クック制作主幹:ジェーン・アン・ビーターズ制作・レジナルド・J・クリステンセン、デニーズ・カービー、マシュー・H・マックスウェル予約購売スタッフディレクター:ケイ・W・ブリッグズ配送部長:クリス・クリステンセンマーケティング部長:ジョイス・ハンセン聖徒の道1997年6月号第41巻第6号発行所末日聖徒イエス・キリスト教会デ106東京都港区南麻布5-10-30

〒106東京都港区南麻布5-10-30

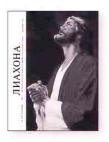
電話 03-3440-2351 印刷所 株式会社 リック 定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共) 半年予約1,200円(送料共) 普通号/大会号200円 Copyright®1997 by The Church of Jesus

Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認一1995年9月 翻訳承認—1995年9月 原題—International Magazines June. 1997.

International Magazines June, 1997.
Japanese, 97986 300
●定期購読は、「「聖徒の道』予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会振音口座番号/00100-6-41512)にて資材管理部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会等社等理郵配送センターへ03-5688-3391 資材管理部配送センター 03-5668-3391

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latterday Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. and Canadian subscription price is \$14,00 per year. SIXTY days' notice required for change of address. INCLUDE ADDRESS LABEL FROM A RECENT ISSUE; CHANGES CANNOT BE MAID UNLESS BOTH OLD ADDRESS AND NEW ONE ARE INCLUDED. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P. O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA. SUBSCRIPTION HELP UNE: 1-800-453-3860, U.S. EXT. 2947; CANADA EXT. 2031. CREDIT CARD ORDERS (VISA, MASTERCARD, AMERICAN EXPERS) MAY BE TAKEN BY PHONE. PERIODICALS POSTAGE PAID AT SALT LAKE CITY, UTAH.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O.Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A.



休 日

わたしは15歳で、ロシアに住んでいま す。『リアホナ』(ロシア語版)が届く日 は、わたしにとって休日のようです。わ たしは、教会がこの機関誌をロシア語や ほかのたくさんの言語で出版してくれる ことに、言葉では言い表せないほど感謝 ・しています。

バプテスマと按手を受けてからの2年 間、天父はわたしに大きな愛を示してく ださいました。これからも義にかなった 生活をし、天父とともに住める永遠の命 に至る道を歩み続けていけば、どんなに 大きな祝福を受けられることでしょう。

ロシア, ロストフ伝道部, ロシア、ロストフ伝道部直轄支部 レイラ・カスビウリナ

霊的な導き

わたしは今、自分の人生で『レトワー ル』(フランス語版。「星」の意)を手に できることに大変感謝しています。いつ もその中に, 自分に必要な霊的な導きを 見いだせます。『レトワール』を読むと き、キリストの愛を感じ、霊感あふれる 一つ一つのお話と世界中の兄弟姉妹 の証に感銘を受けます。

『レトワール』はわたしと家族にとっ て霊感の源です。その中に書かれている すべての指針や勧告を実践するなら、天 父をもっと身近に感じられると確信して います。

フランス, リヨンステーク, サン・エティエン支部 アレクシス・トバー・アルバレス

羅針盤

わたしは若い時期に福音に出会うこと を許してくださった天父にとても感謝し ています。わたしは16歳で、コロンビア に住んでいます。わたしは『リアホナ』 (スペイン語版) に感謝しています。こ の本はわたしの人生に多くの祝福をもた らしてくれました。それはまさに、わた したちの人生を導く羅針盤です。

12月号はとても美しく、読んでいてわ たしの心は喜びに満たされました。家族 や友人とも分かち合うことができまし た。

コロンビア, ボゴタ, エルドラドステーク, コルチホ第1ワード アンジェリカ・マリア・ベラ

何かが欠けていました

ある火曜日の朝、わたしはひざまずい て祈り,一日の仕事を始めようとしまし たが、心は満たされず、何かが欠けてい るという思いがありました。そのとき, 『リアホナ』 (スペイン語版) が心に浮か びました。郵便受けに行ってみると、新 しい号が届いていました。天父の愛と, 天父がわたしの霊的進歩を心にかけてく ださっていることに感謝しています。

イタリア, ジェノバ地方部, ジェノバ第1支部 ローデス・ジラルド・ガルシア

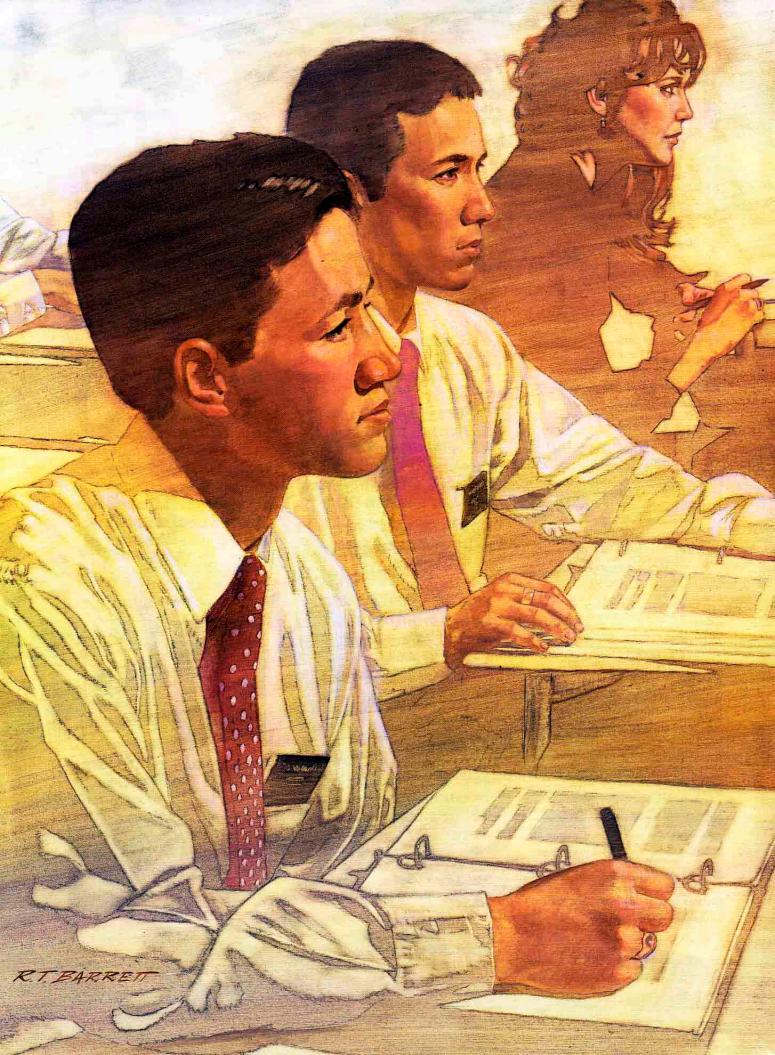


わたしたちの人生を導く「リアホナ」

リーハイとその家族の時代と同じよう に、『リアホナ』(スペイン語版) はわた したちや若人、そして子供たちの生活を 実にすばらしい方法で導いてくれます。 毎月毎月,大管長会のメッセージやモル モンメッセージ、また人々の個人的な経 験から学んでいます。

グアテマラ, グアテマラシティー・マリス カルステーク, メズキタルワード

エルバ・アレイダ・ボニヤ・エンリケス



「霊は人を生かす」

第一副管長 トーマス・S・モンソン

い最近、わたしはユタ州プロボにある宣教師訓練センターを訪問しました。そこでは、世界中で伝道するために召された宣教師たちが、これから教えと証を携えて行く国の言葉の基礎を一生懸命に学んでいます。

スペイン語, フランス語, ドイツ語, スウェーデン語など, 何となく聞き 覚えのある言葉があるかと思えば, 日本語や中国語, フィンランド語のよう に, わたしだけでなく恐らく多くの宣教師にとってもまったく耳慣れない言 葉もありました。この若人たちはなじみの薄い言葉に取り組み, 難しい言語 を学んでいます。彼らの完全な集中力と献身には, だれもが驚かされます。

スペイン語を学ばなければならないのに、それがとてつもなく難しいと感じている宣教師がいると、昼休みに、東洋の複雑な言語を学んでいる宣教師の隣に座らせるそうです。東洋の言葉を聞くと、途端にスペイン語がそれほど難しくないように思われて、再びやる気を出してくるとのことでした。

いろいろな言葉がありますが、すべての宣教師に共通した言語があります。 それは御霊の言葉です。それは学者の記した手引きから学べるものではあり ませんし、読んだり暗記したりすることから得られるものでもありません。 御霊の言葉は、神を知ってその戒めに従いたいと心の底から願い求める人に



すべての宣教師に共通した言語があります。それは御霊の言葉です。それは……神を知ってその戒めに従いたいと心の底から願い求める人に与えられます。

与えられます。この言葉に精通した人は、様々な障害を 打ち破り、問題を克服して、人の心に触れられるように なります。

使徒パウロはコリント人にあてた第二の手紙の中で、 律法の文字にとらわれて視野を狭められた状態を脱し、 御霊のもたらす広々とした展望を求める必要があると説いています。わたしはパウロの次の言葉が大好きで、と ても大事にしています。「文字は人を殺し、霊は人を生 かす。」(2コリント3:6)

そのような理解や知識、希望があれば、危険にさらされば練に遭うとき、思い悩む心や悲しむ心に慰めがもたらされます。『新約聖書』全体のメッセージは、心に新たな息吹を吹き込んで、わたしたちを眠りから覚まさせます。絶望の影は希望の光で一掃され、悲しみは喜びに変わり、人生の雑踏の中で感じる途方に暮れた思いは、天父がわたしたち一人一人を覚えていてくださるという確かな知識によって薄れていきます。

救い主は、天父の許しがなければすずめでさえも地に 落ちることはないと教えて、この真理に対する確信を与 えてくださいました。そして最後に、すばらしい教えを 述べておられます。

「恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である。

だから人の前でわたしを受けいれる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受けいれるであろう。」 (マタイ10:29-32参照)

わたしたちは、日々チャレンジに満ちた複雑な世の中に生きています。そして、すべての良い賜物を与えてくださる御方から引き離され、孤立していると感じる傾向があります。独りで歩むことを考えて、思い悩むのです。

しかし、「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない」(ヨシュア1:5)という主の保証と貴い約束によって、わたしたちは孤独の涙でぬらした枕から顔を上げ、苦しみのベッドから起き上がって、天へと心を向けるのです。

分かれ道や曲がり角の多い人生の旅路を行くとき、そのような慰めはかけがえのないものです。まばゆい閃光や大きな声で御霊が語りかけることはまれです。御霊の言葉はむしろ、優しく、静かで、人の心を高め、和らげてくれます。

時として、わたしたちの質問に対する答えや日々の祈

りに対する答えは、御霊の静かなささやきを通してやって来ます。ウィリアム・クーパー(1731-1800, イギリスの詩人・賛美歌作者)は言いました。

「奇しき御業もて神なしたもう 臓を越えたり 海を歩む…… 疑うことなく 慈悲に頼れ 試しの陰には 恵みあるを」(旧版『賛美歌』85番)

わたしたちは心を澄ませて待ちます。あの「静かな細い声」(教義と聖約85:6)に耳を傾けるのです。御霊が語られるとき、賢い人は従います。御霊のささやきに従うのを後回しにしてはいけません。

この神聖なテーマについて話すに当たり、ほかの人の書いたものではなく、わたし個人の経験を紹介したいと思います。すべて真実です。わたしが実際に経験したことだからです。デビッド・O・マッケイ大管長が「心の花びら(heart petals——訳注 マッケイ大管長は、霊感された思いやひらめきが人の本質的な信条や感情の一部分であることを、花が個々の花弁から成ることにたとえた。)」と呼んだこの御霊の言葉、すなわち神からのささやきについて、今日は3つ実例を紹介します。

第1に、召しに伴う霊感

監督ならばだれしも教会の召しに伴う御霊のささやきについて証をすることができます。往々にして召しは、教えや指導を受ける人のためというよりは、それを施す立場の人のためにあるようです。

わたしは監督として、教会から離れている人、集会に 出席していない人、責任を受けていない人のことをいつ も心配していました。ベンとエミリーの住んでいる辺り を運転していたときも、そのような気持ちを感じていま した。彼らは老齢になり人生のたそがれを迎えていまし た。高齢者に付き物のうずきと痛みのために活動から遠 ざかり、家に閉じこもりきりでした。日々の生活のおも だった活動や交際から孤立し、引き離され、締め出され



エミリーとベンは御霊のささやきによって再び活発になりました。エミリーは聖歌隊に入って、来るべきワード大会で独唱するよう依頼されました。ベンは……アロン神権の若人に話すよう頼まれました。

てしまったのです。

わたしはそのとき集会に行く途中でした。しかし間違いなく御霊のささやきを感じて、ベンとエミリーを訪問するために車を止めました。それは天気の良い週日の午後のことでした。わたしは家のドアをノックしました。エミリーが出て来ました。相手が監督のわたしであることに気づくと、彼女は言いました。「一日中電話が鳴るのを待っていたのに、電話は鳴りませんでした。郵便屋さんが手紙を届けてくれるかと思いましたが、届いたのは請求書だけ。監督さん、今日がわたしの誕生日だとどうして分かったんですか。」

わたしは答えました。「神様は御存じです。エミリー, あなたを愛しておられますから。」

静かな居間に通されたわたしは二人に言いました。 「今日どうしてここに導かれたのか、わたしには分かり ません。でも天父は御存じです。ひざまずいて祈り、 天父にその理由を尋ねてみましょう。」わたしたちは祈り、答えが与えられました。エミリーは聖歌隊に入って、来るべきワード大会で独唱をするよう依頼されました。ベンは、御霊のささやきに従ったときに身の安全が守られたという経験談をアロン神権の若人に話すよう頼まれました。エミリーは歌い、ベンは話をしました。そして、二人が活発になったことに大勢の人が 喜びました。二人はその日から天父のもとに召されるまで、聖餐会を欠席することはほとんどありませんでした。 御霊の言葉が与えられ、聞いて理解されたのです。心が動かされ、人が救われたのです。

第2に、立派な生活を送ったことに対する神への感謝

2番目の例は、今は亡きE・フランシス・ウインターズステーク会長を解任するために、ワイオミング州スターバレーに行ったときのことです。23年という長い期間にわたり、彼は忠実に働きました。生まれつき、また置かれた環境から、彼は控えめな人でしたが、スターバレーの人々を支える柱になった人でした。ステーク大会の当日、会場はあふれんばかりの人で満たされていました。人のために自分の生活を犠牲にしてきたこの高貴な指導者に対して、一人一人が心の中で「ありがとう」と言っているかのように見えました。

新しいステーク会長会の再編成に続いて話をするために立ったわたしは、それまでにしたこともない方法で話すよう御霊の導きを受けました。フランシス・ウインターズ兄弟が何年ステークを管理したかを述べてから、子供のときにウインターズ兄弟から祝福か確認の儀式を受けたことのある人は起立して、そのまま立っているように頼みました。次に、彼から聖任や任命、個人的な助言、あるいは祝福を受けたことのある人は起立するようお願いしました。その結果に人々は感動しました。会場にいたすべての人が起立していたのです。涙が人々の目からあふれて、言葉以上に心からの感謝を物語っていました。

わたしはウインターズステーク会長と姉妹に向かって言いました。「わたしたちは今日、御霊のささやきを受けました。この大勢の人々は、各自の感謝の気持ちだけでなく、立派な生活を送ったことに対する神への感謝をも表しているのです。」

最後は、わたしたちは独りで歩いているのではない、 という知識です

わたしの友人スタンは、重い病気にかかり、体にまひが残りました。彼は強健で、スポーツマンらしい体格を持ち、多くのスポーツをやってきました。それが歩くことも立つこともできなくなってしまったのです。車いすが彼の「家」になりました。優れた医師が治療を続け、家族や友人が希望と信仰をもって祈りをささげました。にもかかわらず、スタンは大学病院のベッドに横たわったままでした。スタンはすでに望みを失っていました。

ある日の午後、わたしはデゼレトジムで天井を見詰めながら背泳ぎをしていました。そのとき、静かではあってもはっきりと、ある考えがわたしの頭に浮かびました。「おまえの友人スタンは病院のベッドで身動きもできずにいるというのに、おまえは悠々と水泳などしている。」そして、御霊のささやきを感じました。「病院へ行ってスタンに祝福を授けなさい。」

わたしは泳ぐのをやめ、服を着てから病院のスタンの 部屋へと急ぎました。ベッドは空っぽでした。治療に備 えて車いすでプールの所に行ったと看護婦が教えてくれ ました。急いでそこに行くと、スタンがたった独りでプ ールのいちばん深い所の縁にいました。あいさつを交わ してから、彼の病室に戻り、そこで神権の祝福を授けま した。

ゆっくりと、しかし確実に、力と動きがスタンの足に 戻ってきました。まず初めに、よろよろした足で立てる ようになりました。次に、以前のように一歩一歩、歩け るようになったのです。スタンがあれほど死に近づき、 快復の希望がなかったことなど、今では想像もできません。

スタンは教会の集会で、主が自分を祝福してくださったことを度々話します。彼の話によれば、あの日の午後、プールの縁で車いすに座り、絶望的な人生を宣告されたように思ったとき、憂うつな暗い思いにふさがれたそうです。そして、それから逃れる方法はないかと考えまし

プールの縁で車いすに座り、憂うつな暗い思いにふさがれたそうです。深いプールの穏やかな水面に向かって憎らしい車いすを押し出すのは容易でした。そうすれば、すべては終わります。しかしちょうどそのとき、友人であるわたしの姿が目に入ったのです。

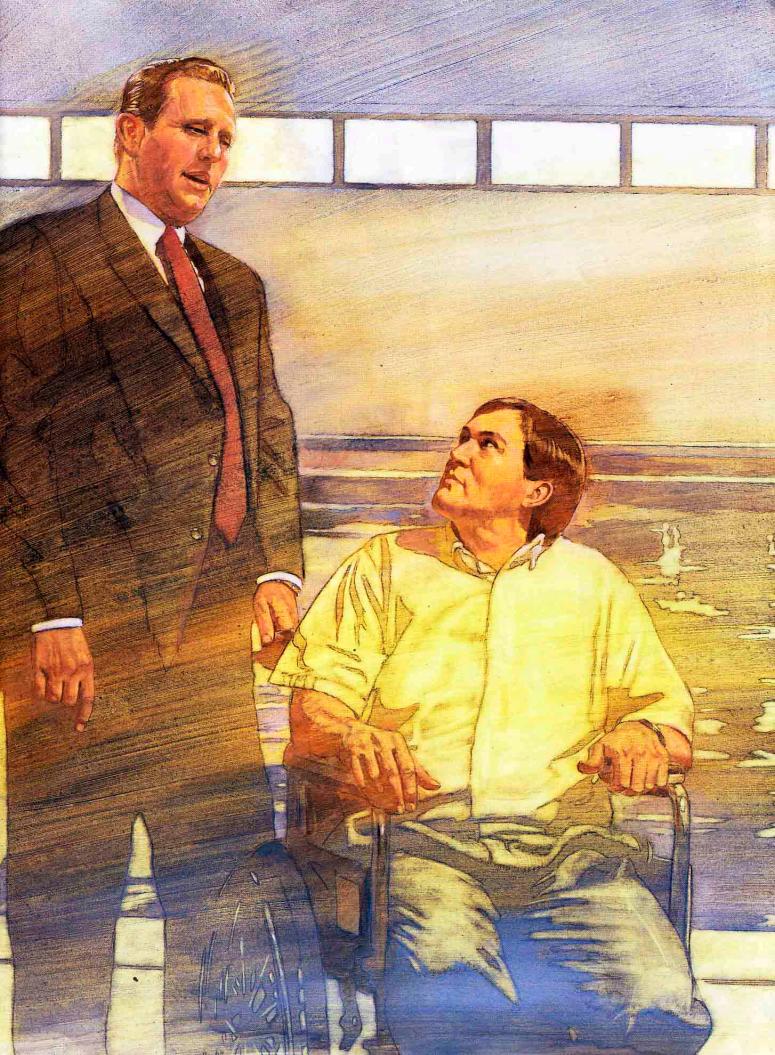
た。深いプールの穏やかな水面に向かって憎らしい車いすを押し出すのは容易なことでした。そうすれば、すべては終わります。しかしちょうどそのとき、友人であるわたしの姿が目に入ったのです。スタンはその日、文字どおり、人は独りで歩くのではないことを知りました。その日、わたしもまた教訓を得ました。決して、決して、決して、御霊のささやきに従うのを引き延ばしてはならないということです。

その後,スタンの末の息子が永遠の結婚をするため親族が主の聖なる神殿に集まりました。わたしたちは息を詰め、過去に経験した奇跡を思い起こしました。胸がいっぱいで言葉を交わすこともできませんでしたが、無言の思いは言葉では表現できない感謝の気持ちを示していました。

人生の旅路を歩み続けるに当たり、御霊の言葉を学ぶようにしましょう。主の優しい招きを思い起こし、それにこたえるようにしましょう。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはい〔る〕であろう。」(黙示3:20)これは御霊の言葉です。主はそれを語り、教え、そのとおりに生きられました。わたしたち一人一人も同じようにすることができますように。□

ホームティーチャーへの提案

- 1. 神を知ってその戒めに従いたいと心の底から願い 求めるすべての人が、御霊の言葉を学び理解することが できます。
- 2. 人生の旅路を行くとき、御霊が与えてくれる慰め はかけがえのないものです。
- 3. まばゆい閃光や大きな声で御霊が語りかけることはまれです。御霊の言葉はむしろ、優しく、静かで、人の心を高めてくれます。
- 4. 御霊が語るとき、賢い人は従います。御霊のささ やきに従うのを後回しにしてはいけません。



個人の啓示

態物, 試し, 約束



祈りは啓示を受けるうえで不可欠な要素であり、祈りがなければ、霊的な事柄を理解するための扉は閉ざされたままかもしれません。祈ることを学んでください。頻繁に祈ってください。ひざまずいてください。ひざまずいて祈ってください。

信じましょう。そうすれば、 皆さんの信仰は絶えず強め られ、真理の知識は増し加 えられるでしょう。

十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・パッカー

使徒パウロは末の日に「苦難の時代」が来ると預言しましたが、今日わたしは、その時代に直面している教会の若人の皆さんに向けてお話しします。」

皆さんを備え、守るために、個人の 啓示についてわたしが学んできたこと を、できるだけ分かりやすくお話しし ましょう。

二面性

皆さんの本質には二つの面があります。この世の両親から受け継いだ朽ちる肉体と、内なる不滅の霊です。皆さんは神の息子、娘なのです。

皆さんは肉体的には目で見、耳で聞き、手で触れ、感じ、学ぶことができます。また、わたしたちの住むこの世界に関する知識のほとんどは、知性を

通して学んでいます。

しかし、もし理性だけで学ぶとしたら、ほかのことをどれほど学んでも、 衛霊やその働きについては決して理解 が得られないでしょう。

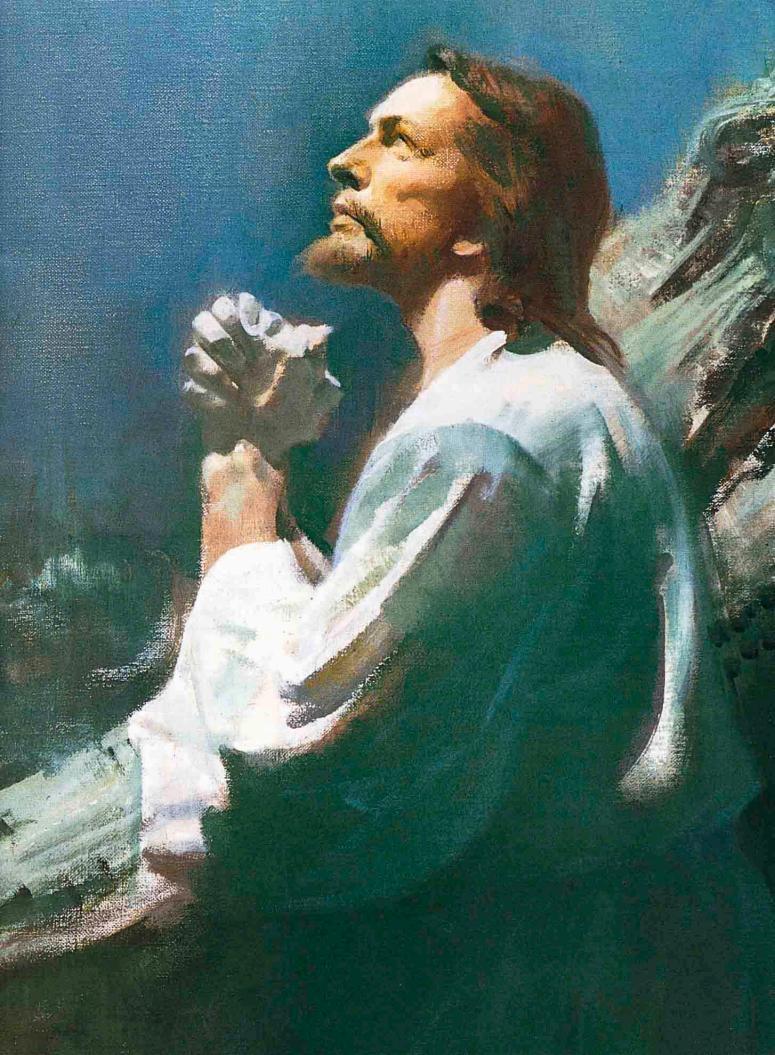
聖文は「老いた者、必ずしも知恵があるのではなく」²と教えています。霊的な意味で知らず、知っていないことにも気づかず、「常に学んではいるが、いつになっても真理の知識に達することができない ³かもしれません。

霊は知性とは別の学び方をします。 なぜなら、「人のうちには霊があり、 全能者の息が人に悟りを与える」⁴から であり、キリストの御霊は「世に来る すべての人に光を与え」るからです。⁵ わたしはこれから、「見る」「聞く」 「感じる」という言葉を使って啓示に ついて話しますが、聖文中の使われ方 と同じ使い方をするつもりです。

聖霊の賜物

バプテスマの後の確認の儀式の中で、皆さんは聖霊の賜物を受けました。 聖霊は全人類に導きを与えることがおできになりますが、聖霊の賜物を受けた人は、さらにこの導きを「常に……伴信」6とする権利を授けられます。

「聖霊の力によって, あなたがたはす



べてのことの真理を知りります。

「天使は聖霊の力で語る」⁸と書かれています。また、聖霊を受ければわたしたちも「天使の言葉で語ることができる | ⁹とまで教えられています。

祈り

皆さんには選択の自由があり、霊感は皆さん自身がそれを望むか、だれかが皆さんの代わりに願ってくれないかぎり授かりません。恐らく授かることができないのです。

祈りなさい, 求めなさいという招き や戒めほど, 聖文の中に繰り返し出て くるメッセージはありません。

祈りは啓示を受けるうえで不可欠な 要素であり、祈りがなければ、霊的な 事柄を理解するための扉は閉ざされた ままかもしれません。祈ることを学ん でください。頻繁に祈ってください。 思いを尽くし、心を尽くして祈ってく ださい。ひざまずいて祈ってください。

今いる所から始める

今いる所から始めなければなりません。たとえ今皆さんが、若い日のアルマのように反抗したい気持ちを感じているとしても、「これらのことについて知っていながら、知りたいと思わなかった」 10 アミュレクのように心を閉ざしているとしても、とにかく祈ってください。

析りは皆さん一人一人にとって天の 扉を開く鍵です。そして錠は扉のこち ら側にあります。 11

学ぶ

しかし、祈るだけでは不十分です。

努力しなくても啓示が与えられると思 う人に対して,主は次のように言われ ました。

「見よ,あなたは理解していなかった。あなたはわたしに求めさえすれば,何も考えなくてもわたしから与えられると思ってきた。

しかし見よ、わたしはあなたに言う。 あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならない。もしそれが正しければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」12

心の内で燃えるとは、単なる肉体的な感覚ではありません。皆さんの内部に暖かい光が輝いているようなものだと考えてください。

経験したことのない人に御霊の促しについて説明するのは非常に困難です。そのような導きは個人的で,ごく私的なものだからです。13

「静かな細い声」

聖霊の声は、聞くというより感じるものです。それは「静かな細い声」¹⁴と表現されています。そして、わたしたちが御霊のささやきに「耳を傾ける」ことについて語るとき、その霊的な促しを指して「わたしは……と感じました」と言うことが多いようです。

預言者ジョセフ・スミスはこう説明しています。「人は、啓示の霊の最初のささやきを自覚しただけで祝福を受ける。例えば清い知識が心に流れ込むのを感じたとき、あなたがたの心にはいろいろな考えが閃光のように次から次へと浮かんでくるだろう。そしてそ

れがその日のうちに、あるいは間もなく実現するのである。……そして神の御霊がどのようなものかを知り、理解するとき、あなたがたは啓示の原則を自分のものとして成長し、やがてイエス・キリストにあって完全な者となるであろう。 $|^{15}$

啓示は「聞く」というより「感じる」言葉としてやって来ます。ニーファイは、天使の訪れを受けたにもかかわらずかたくなな兄たちに向かって言いました。「あなたがたは心が鈍っていたので、その言葉を<u>感じる</u>ことができませんでした。」¹⁶

聖文には同様の表現があふれています。「わたしたちの心から幕が取り去られ、理解の目が開かれた」¹⁷「あなたの思いとあなたの心に告げよう」¹⁸「わたしがあなたの思いを照らした」¹⁹「わたしがあなたがたの心の中に入れる思いを語りなさい」²⁰などもその一例です。啓示について教える聖句は何百とあります。

マリオン・G・ロムニー副管長は、「わたしがこのように心を込めて祈っていると、見よ、再び主の声がわたしの心に聞こえて……」²¹という預言者エノスの言葉を引用しています。エノスはこの後、主が自分の心に語られた言葉を書き記しています。

ロムニー副管長は「これは比較的よくある啓示の方法です。人の心に言葉や文の形でもたらされるのです。わたしもこの方法は個人的に多く経験しています」²²と言っています。

わたしたちは不可思議な経験を求めてはいません。スペンサー・W・キンボール大管長は、人々の多くが「通常



「彼らは互に言った、『道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったとき、 お互の心が内に燃えたではないか。』(ルカ24:32)



「しかし見よ,わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく思い計り,その後,それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならない。もしそれが正しければ,わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ,あなたはそれが正しい表しるであろう。」(教義と聖約9:8)

の手段で与えられる霊的なメッセージ に聞く耳を持っていない。……彼らは 不可思議な啓示を期待しているため, 常に注がれている啓示に気づかないで いる」²³と述べています。

勧め

この御霊の声は静かで、皆さんに何をし、何を言うべきか勧めてくれたり、何かに注意するように警告してくれたりすることもあるでしょう。

このような勧めを無視したり拒んだりすると、御霊は皆さんから離れます。 どう選択の自由を行使するかは、皆さんの選びにかかっています。

信仰

啓示が得られるかどうかは皆さんの 信仰次第です。皆さんが理性だけでは 完全に証明できないものを真理として 信じ、心に受け入れることによって信 仰を行使するのです。²⁴

最初の信仰の行使はキリストとその贖いを受け入れることでしょう。

はっきりした知識がなくても信じ続けて福音の原則を試すなら、御霊が皆さんに教えてくれるようになります。 だんだんと知識が皆さんの信仰に取って代わります。

霊の目で物事を判断し、見られるようになるのです。

信じましょう。そうすれば、皆さんの信仰は絶えず強められ、真理の知識は増し、贖い主、復活、そして回復に関する証は「生ける水の井戸となり、そこから永遠の命に至る水がわき出る」²⁵ようになるでしょう。やがて皆さんは、日々の生活での現実的な決定についても導きを受けられるようになるでしょう。

知恵の言葉

肉体をコントロールしているのは心です。気持ちのうえでは、霊と肉体はほとんど一つに近い状態にあります。ですから皆さんが霊的に何を学ぶかは、ある程度、自分の肉体をどう扱うかにかかってきます。だからこそ「知



信じましょう。そうすれば、皆さんの信仰は絶えず強められ、真理の知識は増し、贖い主、復活、そして回復に関する証は「生ける水の井戸となり、そこから永遠の命に至る水がわき出る」(教義と聖約63:23)ようになるでしょう。

恵の言葉」26が非常に大切なのです。

啓示によって禁じられている習慣性 のある物質、つまり、茶、コーヒー、 酒、たばこなどは、ほかの中毒性のあ る薬物と同じように、天との霊的なコ ミュニケーションに要する繊細な感覚 を鈍らせてしまいます。

知恵の言葉をないがしろにしないでください。この戒めを守る人々に約束された「知識の大いなる宝、すなわち隠された宝」²⁷を受ける機会を、そのような態度のために失うかもしれないからです。知恵の言葉を守れば、肉体の健康にも恵まれます。

音楽

あらゆる種類の健全な音楽を生活に 取り入れてください。

そして、聖なる音楽は啓示と関係があることを知ってください。主は言われました。「わたしは<u>心の</u>歌を喜ぶ……。まことに、義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして、彼らの頭に祝福が注がれるであろう」²⁸と。

教会外の音楽としては、クラシックやポピュラーの分野で心を鼓舞するものもあるでしょう。しかしそういう音楽も、聖なる音楽ほど御霊によって教えを受けられるように、心を備えてはくれません。

使徒パウロはエペソ人に「御霊に満たされて、詩とさんびと霊の歌とをもって<u>語り合い</u>、主にむかって<u>心から</u>さんびの歌をうたいなさい」²⁹と教えました。

敬虔さ

敬虔に演奏された前奏曲は霊の糧と

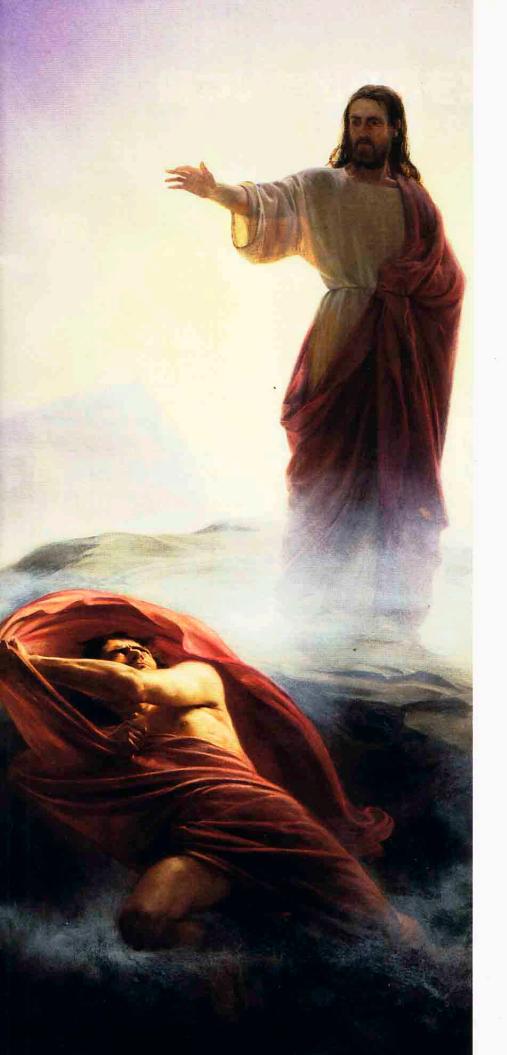
なります。霊感を招いてくれます。 聖餐会の前奏曲が流れたら、ある詩人 の次のような言葉に従いましょう。 「自分を見詰め直し、……心に問うて ください。自分は何を知っているか、 と。」³⁰前奏曲に耳を傾けようとしてい るほかの人のじゃまをしないでください。なぜなら、敬虔さは啓示に欠かせ ないものだからです。主は言われました。「静まって、わたしこそ神である ことを知れ。」³¹

一言警告します。音楽には霊的に非常に害となるものもあります。若い皆さんは、それがどんな音楽かお分かりでしょう。テンポ、音、そしてそれを演奏する人たちの生活態度が御霊を退けるのです。これは皆さんが思っている以上に深刻な危険性をはらんでいます。なぜなら、そのような音楽は皆さんの霊的な感覚をまひさせてしまう可能性があるからです。

誘惑

さて、若人の皆さん、よく聞いてください。個人の啓示について話を進める前に、皆さんに決して誤解のないように言っておかなければならないことがあります。それは「偽りの霊である多くの霊が……いる」32ということです。偽りの啓示や悪魔による促し、誘惑は実際に存在します。生きているかぎり、サタンは皆さんを迷わせようと様々な方法を取り続けるのです。

「悪魔はこのように働く……。悪魔はだれにも善を行うように説き勧めない。また悪魔の使いも、悪魔に従う者も、そのように説き勧めない」33とあるとおりです。



イエスを誘惑した悪魔はあらゆる人を 迷わせようと努めています。不安を感 じさせるような勧め、間違っていると 心に感じるような勧めを受けたとき は、決して従わないでください。

預言者ジョセフ・スミスは「神の御霊を受けていると思っていながら、実は偽りの霊の力に翻弄されているときほど、人が傷つけられることはない」34と言っています。

『モルモン書』のモロナイ書第7章 には、御霊による勧めか否かを試す方 法が記されています。注意深く、繰り 返し読んでください。

試行錯誤を通して、皆さんは御霊の 勧めに耳を傾けるにはどうしたらよい かを学んでいきます。

不安を感じさせるような勧め,正義 の原則に反し,間違っていると心に感 じるような勧めを受けたときには,決 して従わないでください。

数 会

主は御心を夢や示現,訪れ,天使,御自身の声,そして僕らの声を通して明らかにされます。35 そして「わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである」36 と言っておられます。

主の家は秩序の家です。預言者ジョセフ・スミスは「いかなる教会員であれ、あるいは人であれ、自分よりも上位の権能を持つ人々のために指示を受けることは、神の政体に反する」³⁷と教えました。

皆さんは個人的な啓示を受けること ができます。また、親として自分の家 しかし、批判的で否定的な感情を持つようになると御霊は退いてしまいます。そのような場合、御霊を取り戻すには悔い改めが必要です。わたしの経験では、霊感はいつもこの秩序に従うときに与えられてきました。御霊を身近に感じるためにも、指導者を支持し従ってください。

慰め主

さて皆さん、悲しみや失望、失敗や恐れから逃れられるとは思わないでください。これらはだれにでもやって来ます。わたしたちが試しの生涯を送るうえで、これらは欠かせないものなのです。

厳しい試しに遭ったとき、なぜ聖霊 が慰め主と呼ばれているかが分かるで しょう。

ニーファイのように「前もって自分のなすべきことを知らないまま、御霊に導かれて」³⁸人生と取り組んでください。

皆さんの中にはまだイエスがキリストだという確かな証を受けていない人たちもいるでしょう。信仰を実践してください。また、信仰を実践しているほかの人たちを信頼してください。

わたしにもその「確かな証」があります。わたしがその証を受けたのは若いときでした。疑問を抱いていた青少年の時期に、わたしはあるセミナリー教師の証に頼りました。わたし自身は真理を知りませんでしたが、どういう

わけかその教師が真理を知っていることは知っていたのです。

主は言われました。

「もしあなたがたがわたしを愛する ならば、わたしのいましめを守るべき である。

わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

それは真理の御霊である。この世は それを見ようともせず、知ろうともし ないので、それを受けることができな い。あなたがたはそれを知っている。 なぜなら、それはあなたがたと共にお り、またあなたがたのうちにいるから である。

わたしはあなたがたを捨てて孤児と はしない。あなたがたのところに帰っ て来る。」³⁹

御霊の力に対してわたしには証があります。幸福な人生を送る導きとなるようこのたぐいまれな賜物が皆さんたち若人に与えられていることを神に感謝しています。□

(1994年10月の総大会の説教より)

注

- 1. 2テモテ3:1
- 2. ヨブ32:9
- 3. 2テモテ3:7
- 4. ヨブ32:8
- 5. 教義と聖約84:46
- 6. 教義と聖約121:46
- 7. モロナイ10:5。2ニーファイ32:5 も参照

- 8. 2ニーファイ32:3
- 9. 2 = -7 + 731 : 13 ; 32 : 2
- 10. アルマ10:6
- 11. 黙示3:20参照
- 12. 教義と聖約9:7-8 (下線付加)
- 13. 1ニーファイ14:28-30;2ニーファ イ32:7;アルマ12:9-11参照
- 14. 教義と聖約85:6
- 15. Teachings of the Prophet Joseph Smith 『預言者ジョセフ・スミスの教え』 ジョセフ・フィールディング・スミス選。p.151
 - 16. 1ニーファイ17:45 (下線付加)
 - 17. 教義と聖約110:1
- 18. 教義と聖約8:2
- 19. 教義と聖約6:15
- 20. 教義と聖約100:5
- 21. エノス1:10
- 22. Conference Report『大会報告』 1964年4月, p.124
- 23. Teachings of Spencer W. Kimball 『スペンサー・W・キンボールの教え』エ ドワード・L・キンボール編, p.457
 - 24. アルマ32:27-28, 38参照
- 25. 教義と聖約63:23。ヨハネ4:14; エレミヤ2:13も参照
 - 26. 教義と聖約89章参照
 - 27. 教義と聖約89:19
 - 28. 教義と聖約25:12 (下線付加)
- 29. エペソ5:18-19 (下線付加)
- 30. ウィリアム・シェークスピア『尺には尺を』第2幕第2場136-137行
 - 31. 詩篇46:10
- 32. 教義と聖約50:2。3節も参照
- 33. モロナイ7:17
- 34. 『預言者ジョセフ・スミスの教え』p.205
- 35. 教義と聖約43:25参照
- 36. 教義と聖約1:38
- 37. 『預言者ジョセフ·スミスの教え』p.21
- 38. 1ニーファイ4:6
- 39. ヨハネ14:15-18

傷ついた出来事を忘れ去る

スーザン・ターネー

い主は人々から傷つけられても、誤解されても、拒否されても、彼らを決して見捨てようとはされませんでした。人から不当な扱いを受けたとき、傷ついた感情を忘れ去るのはなかなか難しいものです。しかし、練習を積み重ねることによって、救い主の模範に従い、わたしたちを攻撃する人や嫌っていると思われる人に対してさえも親切にできます(使徒10:38;マタイ5:43-48参照)。

思いやりをもって接することができず、軽率に人を裁こうとする誘惑を受けたときは、以下の事柄について考えてみてください。状況を正しく判断する助けとなるでしょう。

- ■あなたを傷つけた行為は故意にな されたのでしょうか。それとも、偶然 によるものでしょうか。
- ■相手の言い分は的を射ているでしょうか。この状況から何を学べるでしょうか。たとえ相手から思いやりを感じられないとしても、自分に改めるべきところはないでしょうか。
- ■その人は思いやりのない行動を取らざるを得ない状況に置かれていたのではないでしょうか。
- ■普通、細やかな感性や心配りは経験によって身に付けるものですが、相手はまだそのような特質を培っていない、ということは考えられませんか。
- 救い主はどのような行動を取るように望んでおられるでしょうか。

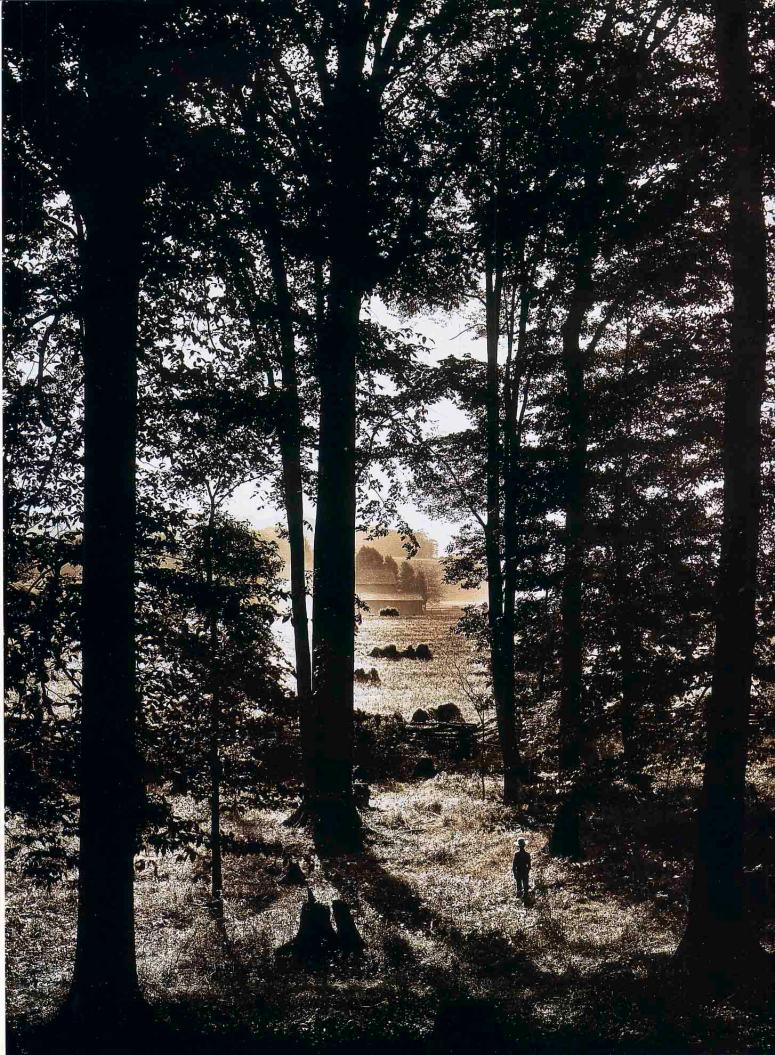
ほとんどの場合、わたしたちは他人がどのように感じ、どのような行動を取るかを決めつけることはできません。けれども、わたしたちは相手に対してどのように対応するかを選択することはできます。キリストに従うということは、プライドと怒りに打ち勝って、謝罪し、自分の感情がどうであれ相手に思いやりを示すことです。感情

を傷つけられて、怒りを相手にぶつけようとする誘惑を受けたとき、そのことを思い起こす必要があります。「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる」(ピリピ4:13) ことを忘れないようにしたい

ものです。

わたしたちが救い主の模範に従おうとするなら、救い主はわたしたちが物事に対する考え方や自分自身を変え、状況に対応する能力を向上できるよう助けてくださるでしょう。□





ある田舎町の写真家の夢

ネルソン・ウォズワース



彼は「モルモンの監督で、カメラを愛した人」でした。この 巻き毛のやせた写真家は、ユタ 州の田舎町スプリングビルの出

身でした。19世紀から20世紀に変わる前後の20年近くの時代、彼は軽装の二輪馬車に乗ってユタ州中部の田舎のほこりっぽい裏道をあちらこちらと行き来しました。暗室と展示室を兼ねた彼の可動式テントは、その地域の小さな町々では、人々によく知られた存在でした。彼は1877年ソルトレーク・シティーでその仕事を始め、1881年には同じユタ州のマンタイで開業しました。そして、1928年に世を去るまで、ユタ州スプリングビルのスタジオでその仕事を続けました。彼は3万点以上のガラス板の原板と写真を遺産として残してくれました。

ジョージ・エドワード・アンダーソン(1860-1928年)は夫、父親、監督、宣教師、旅行家、非凡な写真家として、その生涯を生きました。彼は旅をするにもお金がないことが多く、その腕一本で生活を支えていました。彼は非常に多作でありながら、美的な感覚に恵まれた写真家で、ユタ州に焦点を合わせた活動をしていましたが、やがて、さらに大きな夢を持つようになりました。

彼がどのようにしてその大きな夢を持つようになっ たのかはだれも知りません。しかしアンダーソン兄弟 は、教会の歩みを、文字による説明は極力少なくし、 写真でいきいきと描写した完 全な歴史記録を作りたいとい う構想を持っていたのです。 彼はそのような写真があれば、

恐らく何百万という人々の関心を教会に引きつける,非 常に貴重な伝道の道具になるだろうと考えていました。

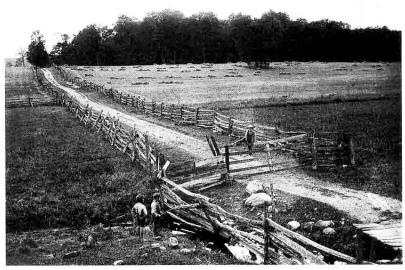
しかし、それを実現するには、何が必要だったでしょうか。それは、預言者ジョセフ・スミスの生地、彼が数々の示現や啓示を受けた場所、彼が町を築いた所、そして最後に彼の血が流された所へ行きさえすれば可能なことでした。しかし、そのような旅をするにはかなりの年月が必要でしたし、また彼にはあまり縁のないもの、すなわちお金も必要でした。

ところが、そのような旅をする機会が、1907年に彼のもとを訪れました。アンダーソン兄弟はユタ州スプリングビルのワードでの監督の職から解任されたすぐ後に、イギリスへ伝道に行く召しを与えられたのです。イギリスへ行くには、その途中、モルモンの歴史にちなんだ地域を通って行くことになります。アンダーソン兄弟は教会から、道中、教会の様々な史跡に立ち寄って、その写真を撮る許可を得ました。そして、ノーブー、カートランド、インディペンデンス、ニューヨーク州、バーモント州、ペンシルベニア州などたくさんの史跡を巡って、写真撮影をしました。彼が撮影した写真は、20世紀に変わった直後の時代の、それらの場所の様子を伝える記録であり、当時そこで生活していた人々に対する彼の人間

左ベージ―1907年に、アンダーソン長老は、ふさわしい場所の撮影ができるように霊感を祈り求めながら、ニューヨーク州バルマイラの近くにある「聖なる森」に入って行った。そして、とある小高い場所に来たとき、彼はその場所を見つけたのである。逆光を受けた木々のシルエットと、その下の切り開かれた場所にたたずむ少年を描いたこの写真は、アンダーソン兄弟の数ある作品の中でも特に印象的な作品である。上――ジョージ・エドワード・アンダーソンがイギリスへの伝道に行く直前、まだ監督の職にあったときの家族との写真。左から、オリーブ・ローリー・アンダーソン、エッダ、G・ローリー、アンダーソン監督、エバ。

的な関心がその作品の興趣を増しています。

イギリスでの伝道を終えてユタ州へ戻る途中、アンダーソン兄弟は再び教会の史跡に立ち寄って、さらに多くの写真を撮影しました。そして、スプリングビルに戻ってからもなお、彼は教会の歴史を写真に残す仕事を急いで進めなければならないという気持ちに駆られていました。1928年にアリゾナ州で、アリゾナ神殿の建築工事の様子と完成した姿を撮影していたときに、彼は病気になり、やむを得ず、思い半ばにしてユタ州へ戻りました。そして1928年5月9日、ユタ州スプリングビルで息を引き取ったのです。

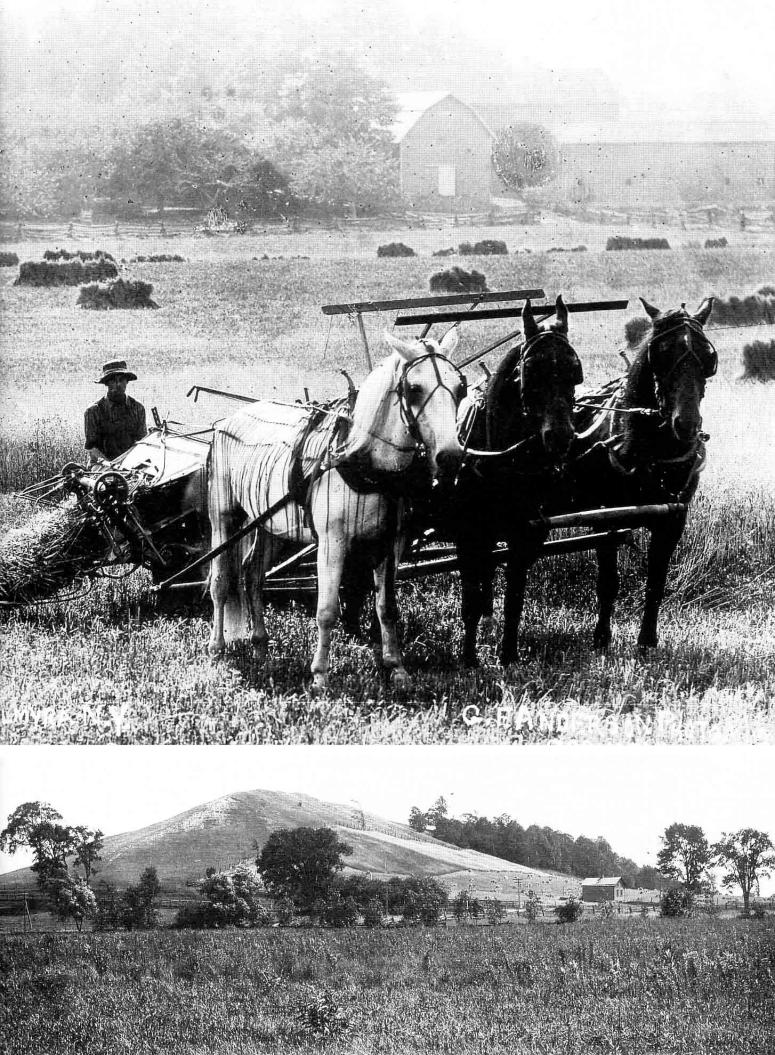




左上 アンダーソン長老は、預言者ジョセフ・スミスの足跡を追い、美しくさわやかな春のある日の朝早く、ニューヨーク州パルマイラ付近の緑の森に通じる小さな田舎道を進んだ。彼は「聖なる森」を背景にして、3人の少年を撮った見事な構図の写真を残した。**左下** ペンシルベニア州ハーモニーを流れるサスケハナ川。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリはこの川の近くでアロン神権を受け、バブテスマを授けられた。右上 ニューヨーク州パルマイラ付近にあった、ジョセフ・スミス・シニアとルーシ・マック・スミスの農場。右下 ニューヨーク州パルマイラ近くのクモラの丘。ここで『モルモン書』の版が初めてジョセフ・スミスに示された。











左上―イリノイ州ノーブーのメインストリート西端にあったノーブー・ハウス、船着場、蒸気船用の桟橋。左下―オハイオ州カートランドのカートランド神殿と墓地。右上―1907年にイリノイ州ノーブーの、マンション・ハウスを訪れた宣教師と教会員。預言者ジョセフ・スミスはその生涯の最後の1年をここで過ごした。右下―イリノイ州カーセージのカーセージ監獄。預言者ジョセフ・スミスとその兄ハイラムは暴徒に襲われ、ここで殉教の死を遂げた。

ジョージ・エドワード・アンダーソンの葬儀の後で、彼の近くに住んでいたエバ・クランドールという青年が、地元の新聞に「我が町の 写真家」についての次のような投稿をしました。

「彼が旅した土地は、彼にとっては神聖な場所であった。彼がこう言っているのが聞こえてきそうな気がする。『わたしはこの神聖な地を写真に残さなければならない。今度戻って来たときには、すべてが様変わりしているだろう。これらの古い史跡の幾つかは、跡形もなく消えてしまっているだろう。わたしが今見ているこの光景を、見ることのできる人がだれかいるのだろうか。』」

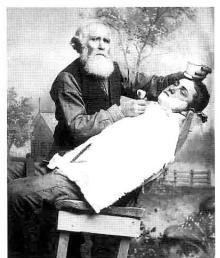
(この記事に書かれている内容の一部は、レル・G・フランシスの『ユタ写真集―ジョージ・エドワード・アンダーソン』 [The Utah Photographs of George Edward Anderson] と、リチャード・ネイツェル・ホルザペル、T・ジェフリー・コトル、テッド・D・ストッダード共編『モノクロームの教会歴史』 [Church History in Black and White] を基に書かれたものである。)





聖徒の道/1997年6月号

下― ユタ州マウントプリーザントの理容師 ジェームズ・ウォーカーが兄弟たちのひげの そり方を実演している。右 ユタ州スパニッシュフォークの「ジェックス・アンド・サンズほうき製作所」の中の様子。1896年。





上一ジョージ・エドワード・アンダーソンは開拓者の生活の様子を写したこの写真を撮るとき、この家族の持ち物も並べてもらった。ユタ州キャッスルゲートに住む彼ら(名前は明らかにされていない)は、しっかりした造りの家の入り口のそばにロッキングチェアを置き、ほかに、子供の食事用のいすと馬を出している。たまたま、洗い立ての衣服を干している光景も写っている。

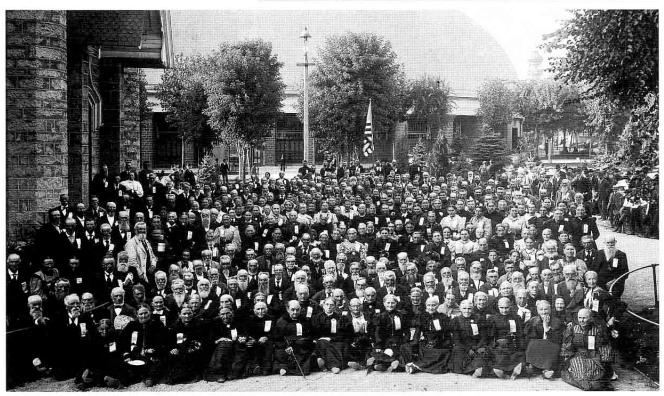




上──アルバート・マンウォーリング夫人と その子供たち。ユタ州スプリングビル, 1903年。アルバート・マンウォーリング兄 弟は、イギリスで伝道の責任を果たしていた ときに、この家族の写真を受け取った。 中――スタンリー・ガードナーの保線区作業 班。ユタ州インディアノラ、1900年。 **下**---1847年にソルトレーク盆地に到着し たモルモン開拓者でまだ健在だった人々を. 入植50年祭のときに撮影した写真。今から 100年前の1897年7月24日に撮影されたこ の写真について、エッダ・アンダーソンはこ う記している。「父が『ユタの開拓者』の写真 の中でも特に大事にしていた写真を撮ったと き……ほかの写真家の中には、そんなことは できるはずがない、やるだけ無駄だ、長い時 間その老人たちを一つの場所に集めることな ど不可能だ、などと言う人たちもいました。 しかし父はそれを成し遂げました。いちばん 後ろの方に立っている人たちも含めて、一人 一人の顔がはっきりと写っていて、だれであ るかがすぐに分かります。」□







従順を通して得られる知恵

「ある人には、神の御霊によって知恵 の言葉が与えられる。」(教義と聖約 46:17)

手時代、救い主は「ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがその上に」ありました(ルカ2:40)。わたしたちも救い主のように、成長して知恵を身に付けることができます。福音の原則に忠実に従うことは、知恵の賜物を得、知恵に満ちた人生を送るために役立ちます。

従順は知恵を得る第一歩

知恵は、天父の戒めを知り、それを 実践することから生まれます。アルマ は息子ヒラマンを次のように論しまし た。「わが子よ、忘れずに若いうちに 知恵を得なさい。まことに、神の戒め を守ることを若いうちに習慣としなさ い。」(アルマ37:35) すべてのことに おいて知恵を得ることは、生涯続く過 程です。わたしたちが与えられた戒め に従うように絶えず努力すると、「教 えに教え、訓戒に訓戒を加えて」(2二 ーファイ28:30) 知恵が増し加わると 約束されています。

ある家族は、『モルモン書』を勉強 するようにというエズラ・タフト・ベ ンソン大管長の勧告に従い、知恵を得 ることができました。子供が4人いた ので、最初は、毎日『モルモン書』を 半ページしか読めませんでした。その 早さですから、ニーファイ第一書を読 み終えるのに6か月もかかりました。 しかし、5年後、アルバータ神殿の 再奉献式が始まるのを待つ間、神殿 の外に座って『モルモン書』の最後の章を読み終えました。父親はその当時を次のように回想しています。「天使を見たり、天からの声を聞いたりしたわけではありません。しかし全員が聖霊を身近に感じ、穏やかで平安な気持ち、そして愛に満たされました。」その家族は『モルモン書』の勉強を通じて受けた祝福に感謝しました。それは、「困難な時代にあって信仰や強さを増すことができ、家庭の中にいっそうの愛と平安をもたらす」(『聖徒の道』1996年6月号、p.44)という祝福でした。

知恵は謙遜な心に生まれる

知恵の賜物は、謙遜な心で知恵を求める者に与えられます。主はこう言われました。「知識のない者は、……へりくだって主なる神に呼び求めることによって知恵を得なさい。

わたしの御霊は、へりくだって悔いる者を照らすために、……世に送られている。」(教義と聖約136:32-33)

ある若い女性は、インスティテュートのクラスに出席して、大切な福音の原則を理解することができました。その日のレッスンを通して、彼女は過去の罪を完全に悔い改めていなかったことに気づきました。聖霊の力を感じた彼女は、従順になり、罪を告白しなければならないことを知りました。でも、そのことについて監督に話すのが恐くてなりませんでした。

へりくだって祈っていると、ある賛 美歌の歌詞が心に浮かんできました。 「恐るな、われは汝が神 常に汝と共 にあり 助け与え [ん。]」(「主のみ言 葉は」『賛美歌』46番)その言葉に啓 発され、確信を持った彼女は監督のと ころへ行き、悔い改めの段階を踏みだ しました。

14歳のジョセフ・スミスが、「ただ、 疑わないで、信仰をもって願い求め」 る人に知恵が与えられる、という約束 を読んだときから福音の回復は始まり ました(ヤコブの手紙1:6)。これは とても意義深い事実です。ジョセフは その約束を信頼し、謙遜な心で知恵を 求めました。そして、わたしたちのだ れもができるように、「知恵に不足し ている者は神に願い求めることが さ、そうすればとがめを受けることな く知恵を得られる」(ジョセフ・スミ スー歴史1:26)と知ったのです。

- ・神の知恵と世の知恵との違いは何でしょうか。
 - ◆人は知恵の賜物をどのように して得るのでしょうか。□

すべて理解できました

ナタリア・ウラディミロブナ・レオノバ

ILLUSTRATED BY LARRY WINBORG

子供のころ住んでいたロシアのモスクワの自宅には、すばらしい本がたくさんありましたが、『聖書』はありませんでした。大人になってからは神に心を向け始め、罪を犯さないように心がけていました。でも、

教会へはめったに行きませんでした し、『聖書』はやはり持っていません でした。

とは言うものの、わたしは自分の生活に満足していました。夫とわたしは 良い家族に恵まれ、二人の娘を育てま した。長女は結婚して、わたしたちは 最初の孫娘の誕生を祝いました。

ところが、その後夫が亡くなり、状況は一変しました。夫を失った悲しみの中で、わたしたちは永遠に離ればなれになるのではなく、もう一度天で会



いたい、と願うようになりました。

夫は神の存在を信じてはいませんでしたが、立派な教育を受けた、聡明な人でした。『聖書』にも親しみ、よく通じていました。とても善良な人で、自分の持てるものを人に与える奉仕の人でした。「彼の方がわたしよりずっと上等の人間じゃないかしら」と思うことも、時折ありました。

夫が亡くなって数か月たっても、ま だ慰めを得られませんでした。「教会 へ行けば重荷が軽くなるよ」と人から 勧められ、地元の教会に行ってみまし た。わたしはそこで会った若い牧師に 手短かに身の上話をし、夫のために祈 ってくれるように頼みました。でも, 夫が神を信じず, バプテスマを受けて いなかったという理由で、牧師から、 「祈るわけにはいきません」と告げら れました。夫にはもう二度と会えない だろうとのことでした。わたしは彼の 言葉を信じたくはありませんでした が, かといって完全に否定することも できませんでした。こうしてその牧師 は、わたしの最後の望みまで断ってし まったのです。わたしの気持ちは癒さ れるどころか、いっそう暗く沈んでい きました。

同じころ、偶然に、それともわたし がそう思っただけで導きだったかもし

わたしはあまり上手に英語が話せませんが,彼が神について話したとき,その言葉がすべて理解できました。

れませんが、下の娘の頼みでユタ州ローガンの科学者たちを我が家に泊めることになりました。彼らは宇宙ステーション「ミル」にある装置を取り付けるため、ロシアに来ていました。わたしたちは親しくなり、彼らがモスクワに来ると、決まって我が家に滞在するようになりました。

彼らはつらい気持ちを紛らしてくれましたが、わたしが悲嘆に暮れていることに気づいていました。わたしの類を伝う涙を見て、科学者の一人、ゲイル・ビンガムは慰めようとしてこう言いました。「どうして泣いているんですか。泣いてどうなるものでもありさせんよ。ご主人は神様のもとに召されたことを御存じないのですか。彼はとても聡明で立派な方でしたから、きっとまた会えます。

わたしはあまり上手に英語が話せませんが、彼が神について話したとき、 その言葉がすべて理解できました。

ビンガム兄弟はすぐにわたしのところへ宣教師を送ってくれました。初めは彼らのお祈りや証に違和感がありましたし、わたしは宣教師たちを、単に母親のような目で見ていました。わたしは遠く離れたこの寒いロシアに、自分の息子や娘を送った母親たちのことを思いました。彼らに食事をし、暖まって行ってほしかったのです。

結局,助けが必要だったのは宣教師ではなく、わたしの方でした。わたしはずっと神と御子について真理を知らずに生きてきました。ですから、心を開くことには抵抗がありました。しかし、1年以上にわたって宣教師から福

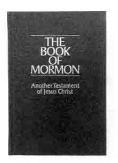
音を学び続け、毎週教会に出席するようになるにつれ、徐々にわたしの心は神に向いていきました。そして、夫を失った痛手は癒されていきました。

1995年12月10日,ようやくわたしはビンガム兄弟からバプテスマを受けました。愛する人を失う悲しみや,つらさを味わったとしても,主はそれに耐える力を与えてくださることを,今,確信しています。わたしにとってその力とは,ようやく生活の中に主の教えを取り入れるようになったことからもたらされる信仰であり,神殿の儀式によりまた夫に会えるという知識なのです。□

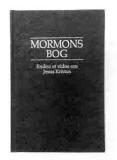
レオノバ姉妹(中央)のバプテスマのときの写真。隣は娘のタチアナとゲイル・ビンガム兄弟。両端は専任宣教師のケリー・アン・ドライデン姉妹(左端)とマリンサ・R・ロビンソン姉妹(右端)。



PHOTOGRAPH COURTESY OF THE AUTHOR



英語, 1830年 (1982年)



デンマーク語, 1851年 (1949年)



フランス語, 1852年



ドイツ語, 1852年 (1980年)



イタリア語, 1852年 (1995年)



マオリ語. 1889年



オランダ語, 1890年



サモア語, 1903年



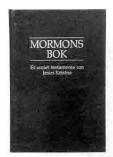
タヒチ語, 1904年



日本語, 1909年 (1995年)



トンガ語. 1946年



ノルウェー語,1950年



フィンランド語, 1954年



中国語, 1965年



ラロトンガ語. 1965年



インドネシア語, 1977年



クロアチア語, 1979年



フィジー語, 1980年



カタロニア語, 1981年



アイスランド語, 1981年



ベトナム語, 1982年



ケクチ語、1983年



アラビア語, 1986年



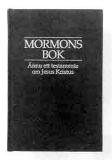
アイマラ語, 1986年



ギリシャ語, 1987年



ハワイ語、1855年



スウェーデン語, 1878年

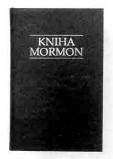


スペイン語, 1886年 (1992年)



カイ・A・アンダーセン

PHOTOGRAPHY BY WELDEN ANDERSEN; JOSEPH SMITH TRANSLATING GOLD PLATES, BY ROBERT T, BARRETT



チェコ語, 1933年



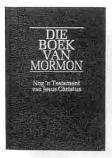
英語 (点字), 1936年 (1994年)



ポルトガル語, 1939年 (1995年)



韓国語. 1967年



アフリカーンス語, 1972年



タイ語, 1976年



ポーランド語, 1981年



ロシア語, 1981年



ヒンディー語, 1982年



ハンガリー語, 1991年



スペイン語(点字), 1995年



イロカノ語。1995年



預言者ジョセフ・ス ミスは次のように語っ ています。「わたしは… … 〔『モルモン書』が〕 地上のすべての言語で 印刷されたと聞けばど んなにかうれしいだろ う。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith

『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス選, p.176)

『モルモン書』はまだ地上のすべての言語で出版されてはいません。しかし、世界中で教会の会員が増えるにつれて、その翻訳の業は着々と進められています。1997年の初めには、『モルモン書』は87の言語で印刷され、そのうち40が全訳の『モルモン書』で、47が『モルモン書』からの抜粋版です。

すでに絶版になっている4つの全訳版はこの87版には含まれていません。それは、ウェールズ語版 (1852年)、英語デゼレトアルファベット版 (1869年。訳注——1850-1970年までの間、教会が考案して一部の印刷物に使用していた標音文字による英語の一形式)、アルメ

現在出版されている40の『モルモン書』。初版出版年と、該当するものには最新改訂版の出版年も付記。



いっそう多くの天父の子供たちが「この世で最も正確な書物」を読んで理解する機会に恵まれるよう,『モルモン書』の翻訳はこれからも続いていくでしょう。

ニア文字によるトルコ語版 (1906年) と西アルメニア語版 (1937年) の4版 です。現在は、ローマ字によるトルコ 語と西アルメニア語の抜粋版の『モル モン書』があります。

1997年年頭の時点で最も新しい『モルモン書』抜粋版は、フィリピンのワライ・ワライ語によるものです。一方、ほかの言語の抜粋版が完訳版に拡充されつつあります。1997年には、新しい言語の版が数版(新しい言語の抜粋版と現在ある版の改訂版も入れて)制作される予定です。

確かに御霊は言語の障壁を克服することができますが、『モルモン書』の御霊と福音のメッセージは、母国語を通してでなければ完璧には理解できません。主は次のように言っておられます。「その日には、イエス・キリストを啓示するために注がれる慰め主の働きによって、この力を有する職に聖任される者たちを通じて、すべての人が自分の言葉と自分の言語で完全な福音を聞くであろう。」(教義と聖約90:11)

『モルモン書』は英語とスペイン語 を話す人たちのためにすでに点字訳が 出版されていますが、聴覚障害者のた めに現在ビデオ版が制作されていると ころです。1997年の初めの段階で、アメリカ手話による『モルモン書』ビデオテープ全11巻のうち最初の7巻が完成しています。アメリカ手話のビデオによって福音と『モルモン書』の教えに対する理解が大いに増したために最近活発になった兄弟を、わたしは知っています。

『モルモン書』を新しい言語で出版するに当たっては、新版が英語版に忠実であるように細心の注意が払われています。それは英語版が「神の賜物と、力によって翻訳」された(教義と聖約135:3。『モルモン書』タイトルページも参照)ものだからです。長年の間に、幾つかの言語による版は改善された翻訳を読者に提供するために改訂されてきました。

これはどれも時間のかかる作業です。目標の言語を話す有能でふさわしい人物が翻訳者として召されるまで、翻訳を始めることはできません。新しい言語の『モルモン書』の準備には翻訳だけでなく、福音への造けいの深い教会指導者たちによる検討も含まれています。この過程を通して、翻訳版が英語版の持つ御霊と意味に極力近いものとなるようにするのです。

自分の母国語や外国語の『モルモン書』を手に入れる最も簡単な方法は、教会の配送センターを通じて購入することです。もし最寄りの配送センターに特定の言語の『モルモン書』がなければ、注文してもらえます。もしも、『モルモン書』を受け取る承諾をした人が外国にいる場合、その地域の伝道部に連絡をして専任宣教師に『モルモン書』を届けてもらうことを考えてみてもよいでしょう。

預言者ジョセフ・スミスが言ったように、『モルモン書』は「わたしたちの宗教のかなめ石」(『預言者ジョセフ・スミスの教え』p.194)です。『モルモン書』の教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができます。ですから、いっそう多くの天父の子供たちが「この世で最も正確な書物」(『預言者ジョセフ・スミスの教え』p.194)を読んで理解する機会に恵まれるよう、『モルモン書』の翻訳はこれからも続いていくでしょう。□

(アンダーセン兄弟――教会教科課程部,聖典/制作コーディネーション部門ディレクター)



ワライ・ワライ語, 1996年

バンビニョ語, 1994年

セプアノ語, 1992年

ヒリガイノン語, 1994年

生ける預言者の言葉

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えと勧告

ほかの信仰を持つ人々へ

「わたしたちは、どんな人々にも優れた点があることを認識しています。また、人々の生活の向上に努め、善良で安定した生産的な生活ができるよう、様々な原則を教えることに努力している教会は、いかなる教会であろうと、優れた点があることを認めます。わたしたちは、世界中の人々に向かって、ただこう申し上げます。『どうぞ現在お持ちの優れたものを皆持っておいでください。それにさらに付け加えるお手伝いを、わたしたちにさせてください。わたしたちは、現在その原則の上に立って、業を進めています。』」(1996年4月30日、フィリピン・テレビインタービューへの回答)

教会と政治

「当教会は、いかなる政治団体に対しても、またいか なる立候補者に対しても, 支持を公式に表明することは ありません。また,政治的な目的のために,教会の建物 や施設の使用を許可することもありません。わたしたち は, 道徳上の問題が論議される場合を除いて, 教会とし ては政治に距離を置くべきだと信じています。道徳上の 問題の場合には、わたしたちは自らの見解を表明したい と考えています。しかしながら、日常的な政治活動の場 合には、教会としては中立の立場を守りたいと思ってい ます。ただ、同時に、教会員に対しては、公民として、 個人の政治的権利を適切に行使してほしいと願っていま す。また同様に、わたしたちは、礼拝の自由や信教の自 由を認めることが、良い政治を行う場合の欠かせない条 件の一つであると考えています。わたしたちは公式の宣 言で、次のように言っています。『わたしたちは、自分の 良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると 主張し、またすべての人に同じ特権を認める。彼らがど のように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそ れを妨げない。』(信仰箇条1:11)」(1996年5月18日, 東 京での記者会見)

神に報告する責任

「わたしは、イエス・キリストの福音という礎があることを、主に感謝しています。その礎から、わたしたちは強さを引き出してきます。それは、わたしたちの信仰の源です。神聖な事柄を理解するための源です。そして、

わたしたちに生きる目的を与えてくれる, その 源なのです。……

わたしたちは、永遠の御父である神の息子娘たちです。皆さんはそれがどういう意味を持つか、考えたことがあるでしょうか。それは、わたしたち一人一人の中に、何か神聖なものがあるという意味なのです。皮膚の色や髪の色は問題ではありません。わたしたち一人一人この世に来るときに、神の息子娘として、神聖

が、この世に来るときに、神の息子娘として、神聖 な生得権を頂いて来たということなのです。ですから, 確実なことは、わたしたちが神の息子娘であることと同 様、いつか、わたしたちがどのような生活をしてきたか ということを神に報告しなければならない時が来るとい うことです。わたしたちは、きれいなばらの花のように 1日か2日で枯れてしまおうとしているでしょうか。それ とも、イエス・キリストの福音という永遠の真理の中に 深く根を下ろそうとしているでしょうか。兄弟姉妹、わ たしはイエス・キリストの福音に心から感謝しています。 わたしたちは、この福音の中に深く根を下ろし、そこか ら強さを得ることができるのです。そのような状況の下 では、人生には目的があります。人生が、職業上の成功 を求める場ではなく、使命を果たすための場となります。 わたしたちは、生計を維持すること以外にも、すること がたくさんあります。わたしたちは人に仕えるために生 きる必要があるのです。」(1996年5月19日,福岡でのファ イヤサイド)

神権の祝福

「妻や子供たちが祝福を必要としているとき、その頭に手を置くことのできるメルキゼデク神権者たちは、何とすばらしい祝福に恵まれていることでしょうか。また、ここにお集まりの女性の皆さんに、わたしはぜひ、こう申し上げたいと思います。皆さんの夫の持つ神権の権能を通して、皆さんが受ける祝福は大いなるものです。神権にふさわしい生活をし、神権を尊ぶ男性は、皆、いっそう立派な夫となり、立派な父親となり、立派な男性となります。主の業の回復に当たって、その偉大な目的の一つが、すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語るためであったというのは、何とすばらしいことでしょうか。」(1996年5月24日、韓国・釜山でのファイヤサイド)

わたしたちの神聖な責任

「わたしたちは何と大いなる責任を頂いていることでしょうか。全能の神の啓示によれば、全世界の運命がわたしたちの手中にあります。わたしたちには、無駄に過ごす時間はありません。不義な生活をしている暇もありません。不道徳なことに心を奪われている時間もないのです。わたしたちは最善を尽くして、自分を整える必要があります。皆さんもわたしも、それは同じです。なぜなら、神の偉大な言葉に従ってわたしたちの伝える教えを、神の子供たちが受け入れるかどうかで、永遠の父なる神とこの地上にいる神の子供たちとのかかわりの深さが決まってくるからなのです。」(1996年5月24日、台湾台北伝道部大会)

信仰を同じくする者との結婚

「若い男性の皆さん、末日聖徒の女性を好きになってください。そして、若い女性の皆さん、末日聖徒の男性を好きになってください。もしそれができれば、皆さんは、今よりはるかに幸福になります。お互いに理解し合い、お互いの価値観を尊重し合えるからこそ、今より幸福になれるのです。そして、それができれば、生涯にわたって、感謝の気持ちを抱き続けるでしょう。」(1996年5月31日、フィリピン・セブシティでのファイヤサイド)

貧困の問題の解決のために

「地球のこの地域に住む人々の貧困と苦しみを目にす るにつけ、わたしは涙を流してきました。わたしの心は 今, それらの人々のうえにあります。この問題の解決策 として、わたしはイエス・キリストの福音以外の方法を 知りません。イエス・キリストの福音を除いて、この 人々を助け、その生活に祝福をもたらすものはなかろう と思います。たとえ,この人々が貧困と苦難のうちに生 活していたとしても, 希望と信仰を抱いて神に目を向け ることができれば、悲しみのときにあっても、それが彼 らを支えてくれるだろうと思います。しかし、もう一歩 踏み込んで申し上げれば、もしこの人々が福音を受け入 れ, その教えに従って生活し, さらに什分の一と献金を 納めることができれば、たとえ、その額がわずかであっ たとしても, 主は, 昔人々と交わした約束を今でも守っ てくださると、わたしは心の底から信じています。そう すれば、人々の鉢には米が、体には衣服が、そして、頭 上には雨露をしのぐ住まいが与えられることでしょう。 それ以外の解決法を,わたしは思いつきません。この 人々は、彼らを高め、助けてくれる、この地上のいかな る力も及ばないような偉大な力を必要としているので す。」(1996年6月1日、フィリピン・セブ伝道部での宣教 師集会) □





アイスランド

今も終わらない英雄伝

ディエーン・ウォーカー

アメリカとヨーロッパの中間にあり、北極圏の南に位置する孤島にバイキングの一団が定着したのは今から1,100年以上前のことです。それが美しい景観と荒涼とした風土を合わせ持つ島、アイスランドです。厳しい自然環境に耐え、人跡未踏の地で苦闘を強いられた彼らの生活は、決して容易なものではなかったでしょう。

中世の時代、北欧諸国は皆同じ言葉を使っていました。アイスランドには、この国を築き、開拓する人々が経験した様々な出来事をつづった英雄伝、すなわち「サガ」が数多く残されています。そして現代のアイスランド国民はバイキングであった先祖と本質的に同じ言語を今もなお話しているため、中世のサガを不自由なく読むことができます。

アイスランドは現在もほとんど昔のままです。この 地での生活は相変わらず困難を極めています。けれど も、今もう一つのサガが生まれようとしています。そ うです。この地の歴史に新たな章が書き加えられてい るのです。

左ページ――レイキャビックの中心部の色鮮やかな建物にかかった虹。右下――スベインビョルグ・グッドムンドスドッティルは1976年にバプテスマを受けた後、教会の翻訳者となった。彼女の最初の仕事は『モルモン書』の翻訳だった。

ここアイスランドで、回復されたイエス・キリストの福音が説かれたのは1851年、今からおよそ150年前のことです。教会はしばらくの間繁栄しましたが、厳しい追害が続いた後、1914年に伝道活動が中止されました。1977年に当時七十人定員会の一員だったジョセフ・B・ワースリン長老が福音を宣べ伝える地として正式にこの国を奉献するまで、伝道は再開されま





せんでした。今日、人数はさほど多くありませんが、献 身的な末日聖徒の一団が苦労しながらも戒めを守り, 友 人や隣人に福音のメッセージを分かち合っています。

伝道の業を進める彼らの前に幾つかのチャレンジが待 ち受けていました。最初に行く手を遮ったのは言葉の問 題でした。世界中でアイスランド語を話す国はほかには ありません。しかし、アイスランドで教会を確立するう えで、翻訳された教会の諸資料は不可欠でした。彼らには 聖文もなければ手引きもありませんでした。このため、レ ッスンで使う資料は毎週翻訳しなければなりませんでした。

スベインビョルグ・グッドムンドスドッティルは, 1975年に宣教師たちが再びアイスランドへ戻って来たと きに求道者になった最初のアイスランド人のうちの一人 で、1976年にバプテスマを受けました。流暢に英語を 話せた彼女は、やがて教会の翻訳者となり、20年間その 仕事を続けています。「最初に与えられた仕事は『モル モン書』を翻訳することでした」とグッドムンドスドッ ティル姉妹は当時を振り返って話してくれました。「自 分にそのような仕事をする資格も能力もないことをよく 承知していました。それまでに翻訳したものといえば宣 教師が使うパンフレット程度でしたから。」彼女はへり くだり, 何時間もの間ひざまずいて祈りました。「主の 助けがなければとうていできないと分かっていました。」 大変な仕事でしたが、グッドムンドスドッティル姉妹は 聖霊の導きを受けながら取り組みました。こうしてアイ スランド語の『モルモン書』は1981年6月に出版されま

部長オラフル・エ イナルソン

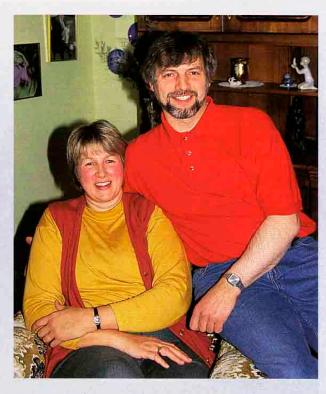


した。

今や自国語の聖文を手にしたアイスランドの聖徒たちは、新たな力を注がれ、決意を深めました。こうして聖徒たちの心には神殿の祝福を受けたいという望みが高まってきました。しかしアイスランド語しか話せない人々にとっては、いつ実現するとも知れない遠い目標でした。それでも、英語を話せた一部の会員はたくさんの費用と時間をかけてイギリスのロンドン神殿を訪問しました。わずかに英語を理解できる人々もこの訪問に参加しましたが、言葉を理解できないために満足できる経験ができず、失意のうちに帰国することもありました。彼らは、神殿の儀式が翻訳される日を夢見ていました。

この夢の実現を待ち続けるのには、信仰を要しました。1981年にグッドムンドスドッティル姉妹は割り当てを受けて、神殿の儀式を翻訳するためにソルトレーク・シティーに行きましたが、録音するまでには至りませんでした。次に姉妹がソルトレーク・シティーまでの長い旅に出発したのは10年後のことです。この訪問で彼女は10年前の翻訳を新しくするとともに録音用に改訂しました。

希望をもって待ち続けたこの10年間にアイスランドの教会は成長しました。聖徒たちの証が強められ、新会員が続々と加わって教会は強さを増していきました。グッドムンドゥル・シグルドソンと夫人のバルゲルドゥル・クヌッドッティルがバプテスマを受けたのは



グッドムンドゥル・シグルドソンと夫人のバルゲルドゥル・クヌッドッティルは1982年以来の教会員である。5人の子供を持つ彼らは家族を大切にする教えから教会に関心を持ち始めた。





1995年6月に行われたロンドン神殿訪問旅行以来,レイキャビック支部の会員たちは結束を固め,証を強め、福音に対する愛を新たにしている。

1982年のことでした。シグルドソン兄弟は1983年にレイキャビック支部の支部長に召され、1986年にはアイスランド初の地方部長に召されました。

グーミ (彼はこう呼ばれるのが好きです) は教会がアイスランドで足場を固めていた時代に遭遇した数々の問題をこう述懐しています。「アイスランドの教会には過去からの積み重ねといったものがまったくありませんでした。そのため、わたしたちは孤立感をぬぐえずにいました。何をどうしたらよいのか、尋ねようにも答えてくれる人がいません。時々、わたしに手伝いを申し出てくれる人もいました。でも問題は、何を手伝ってもらったらよいか分からないことでした。現在では、指導者の基礎固めができています。彼らは新しい指導者が召されたときに支援する備えができています。」

レイキャビック支部の支部長に召されたバルドゥル・A・グンナルソンはごく最近に召された指導者の一人です。バルドゥルも最初に教会について耳にしたのは1982年でした。しかし当時の彼の生活は宗教を考えることができるような状態ではありませんでした。アイスランドのほとんどの青年と同じような生活を過ごしていました

が、バルドゥルには乗り越えなければならない障害がたくさんありました。「わたしはたばこと酒を何度かやめようとしましたが、途中でくじけてしまい、最後まで続きませんでした」とバルドゥルは語っています。彼には家族がありましたが、結婚式を挙げていませんでした。そしてついに、長老たちが彼の家を訪れてから4年後、バルドゥルは家族が互いに結ばれ、また赦しを受けたいという気持ちから、すでに3人の娘の母親となっていたオルフ・ビャルナドッティルと結婚式を挙げることにしました。オルフはこのときバプテスマを受ける準備ができていませんでしたが、夫が毎週日曜日に娘たちを教会へ連れていくことには同意しました。「わたしは妻と子供たちとともに神殿へ行くという祝福師の祝福を受けていましたので、それを実現させるために懸命に努力しました」とバルドゥルは述べています。

家族と一つに結ばれたいというバルドゥルの夢が実現に向かって前進し始めたのは1994年のことです。この年、ソルトレーク神殿において神殿の儀式がアイスランド語で録音されるという発表があったのです。同年5月、オルフは夫に同行して、録音のために招かれた数名の人々と一緒にソルトレーク・シティーへ行きました。そしてソルトレーク・シティー滞在中に、オルフは友人たちが見守る中、ソルトレーク・タバナクルのバプテスマフォントで夫のバルドゥルからバプテスマを受けました。二

人は1年後にロンドン神殿で結び固めを受けています。

録音は5日間で終わりました。録音に携わった人々は神殿を後にする前に、完成した作品のごく一部を見る許可を与えられました。「フィルムの一部を見て、自国語で語られる最初の部分を聞いただけで、わたしは深く感動しました。それは決して忘れられない経験でした」とグーミは述べています。「この体験から、故郷の兄弟姉妹と一緒にこのすばらしい経験を分かち合いたいという思いが強められました。」

こうして、レイキャビック支部の会員たちのために神殿訪問旅行を計画できるようになりました。準備することはたくさんありました。支部の会員たちは神殿推薦状を受けるにふさわしくなることに加え、家族の名前を見つけるために系図の探求をし、旅行の費用をためなければなりませんでした。家族全員が神殿を訪問するとなると、この費用は相当な額になります。

「神殿訪問の準備を進めている会員たちの間にはすがすがしい興奮が漂っていました。またお互いに大きな愛と関心を示すようになりました」とオラフル・エイナルソン地方部長は当時を振り返って語ってくれました。「わたしたちがかつて感じることのなかった一致が支部の中にみなぎったのです。」

こうして準備が整いました。レイキャビック支部の

大人と子供を混じえた総勢38人の会員たちは1995年6月にロンドン神殿に向かって出発しました。彼らは1週間,主の業を一生懸命に行いました。支部の会員の一人はこのように述べています。「わたしたちは心に御霊を感じました。あのとき,グループの人々の喜びにあふれた顔をわたしは決して忘れないでしょう。わたしたちは神殿で経験した喜びについて語り合う度に,お互いがそのときに感じた愛と思いやりはますます大きく成長しています。」彼らは強められた証と福音に対する新たな愛を胸に抱いて家庭や家族のもとへと帰ったのです。

教会が、より強くなるための歩みを続けるのと同時に、アイスランドの聖徒たちのサガは続きます。前年経験したことの記憶がまだ消え失せていない1996年6月、レイキャビック支部の一部の会員は2回目のロンドン神殿訪問に出発しました。彼らは再び、自分たちのバイキングの先祖の言葉で聖なる儀式に携わり、主との聖約を新たにするという祝福にあずかったのでした。□



PHOTOGRAPH COURTESY OF SVEINBJÖRG GUDMUNDSDÓTTIR

左―1996年にレイキャビック支部の一部の会員はロンドン神殿への2度目の訪問を果たした。中央―アイスランド全域にこけで覆われた火山岩地帯が数多くある。右―オラフル・エイナルソンと夫人のビョルグ・マルテュインスドッティルは福音を通して喜びと平安を見いだした。



聖徒の道/1997年6月号



マリア・ロシンカールソドッティルが ディエーン・ウォーカーに語った言葉を基に編集

夢が 現実になりました

たしは1976年に教会に入りましたが、その10年ほど前にある夢を見ました。だいぶ前に亡くなった父が夢に出て来て、ニックネームでわたしに呼びかけてこう言ったのです。「ミーア、おまえは後に外国で非常に大切なことを家族のために行うだろう。」わたしには決して忘れられない夢でした。一体父は何が言いたかったのでしょう。

宣教師たちが初めて玄関のドアをたたいた日は、わたしにとってすばらしい日になりました。わたしは宗教の話をしたい人にはいつも快く耳を傾けようとしてはいましたが、多くの場合、相手の話に反駁したり、質問攻めにしたりしました。しかし今度ばかりはまるで神が「耳を傾けなさい。彼らのおさい」とおっしゃっているように感じました。わたしは正しい身の置き場というか、正しい教会を見つけたいと思っていたので彼らの話に耳を傾けました。

宣教師が帰った後、わたしは部屋を 歩き回って、何度も何度も「まさしく 彼らは神の僕よ。そう感じるわ」と言 い続けました。彼らの話に耳を傾けて 彼らから学んだのです。以前には理解 できなかった多くの事柄が明らかにな り始めたのですが、中でもわたしに最 も大きな衝撃を与えたのは死者のため のバプテスマに関する教えでした。

何回かレッスンを受けた後,バプテスマを受けようと決心しました。けれども,それは簡単にたどり着いた結論ではありませんでした。 幾晩も寝ずに祈りました。 祈る度に平安があり,まるで主の腕に抱かれているように感じました。

5人の子供たちはわたしのバプテスマの決心を肯定的に受け止め、支持してくれましたが、夫は大反対でした。バプテスマの許可はくれたものの、どれほど彼が反対していたかをはっきり知らされたのはバプテスマを受けてからでした。わたしが夫の意に添わない行動を取ったことを友人たちにまで批判されました。しかし、いつも必要な強さを受けることができました。

教会員になってわずか6か月で、わたしはアイスランド人最初の扶助協会会長に召されました。困難な時期でしたが、わたしは自分が主に仕えているのを知っていました。どうしたらよいのか教えてくれる人はだれもいませんでした。だれにとっても初めての経験だったからです。英語のテキストと手

マリアは家族歴史図書館で膨大な時間を 過ごした。



STOGRAPH BY JANET THOM

TO SO CONTROL OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY

、1995年6月、マリアの夢は現実のものとなった。アイスランド語の神殿の儀式を受けるために37人のアイスランド人の聖徒たちとともにロンドンまで旅をしたのだ。

引きはありましたが、英語を話すこと も理解することもできないわたしには 何の役にも立ちませんでした。しかし、 スベインビョルグ・グッドムンドスド ッティル姉妹が教師たちのために毎週 レッスンを翻訳してくれるようになり ました。教会の資料でアイスランド語 のものを見たのはそれが初めてでし た。以来、レッスンを受けるのが楽し くてたまりませんでした。何度も何度 もレッスンを繰り返し読んだもので す。思い返すと、恐らくいちばん楽し かった時期というのは、いちばん苦し かった時期だったのではないでしょう か。よく, ひざまずいて主を呼び求め たものです。

生涯を通じて、わたしはいつも家族 の歴史に興味を持ってきました。そし て教会員になってから、またある夢を 見ました。この夢では、わたしは何人 かの客、しかもとても偉い人たちを迎 えようとしているところでした。テー ブルにはさけが用意してありました が, 客用にテーブルに皿を置く必要が ありました。皿をもっと置こうとする 度にいろいろなじゃまが入りました。 でも, 皿がもっとたくさん必要なのは 分かっていました。その後、一度目が 覚めましたが、眠くてたまりませんで した。わたしは再び眠りに落ち、同じ 夢をもう一度見ました。わたしは, 自 分にはさけ(これは福音を指している と思いました)があるけれども、ほか の人たちが福音を味わえるように備え をすべきだと教えられたように感じま した。そして、神殿に名前を送る必要 があると悟りました。

この経験が家族歴史図書館で何時間 も家族の記録を探すきっかけとなりま した。図書館で調査している間は、まるで時間が存在しないように感じたものです。いつかこの記録を神殿に持って行くことができれば、という遠い目標はありましたが、言語という壁のために実現できないかもしれないと思っていました。

神殿の儀式がアイスランド語に翻訳されたと聞いたときは心が躍りました。19年間、系図に取り組んできましたが、神殿に行けるとは夢にも思っていなかったのです。それが今になって、どういうわけか自分はふさわしくないと感じ、夫は決して神殿に行くのを許さないだろうと思い始めたのです。支部の会員たちが神殿旅行の計画を立て、神殿推薦状の面接に行くのを、わたしはただじっと見ているだけでした。

ある日曜日、オラフル支部長が支部 長室にわたしを呼び入れて、なぜ神殿 推薦状を申請しないのかと尋ねまし た。わたしは自分の恐れと不安を説明 しました。支部長はこう言いました。 「どうしてそんなに自分を厳しく裁く のですか。もし主の僕としてわたしが あなたは神殿に参入できます、と言え ば、自分がふさわしいと信じてくれますか。」オラフル支部長は、夫と話して神殿に行く許可がもらえるように頼んでみましょう、とも言ってくれました。支部長室を出たわたしはうれしくてたまらず、会う人すべてを抱き締れしなものです。家に帰ったときもうれしい気持ちはありましたが、再び不安が頭をもたげ始めました。しかしそれまでのことを夫に話すと、彼は何と、「気にしないで行って来なさい」と言ってくれました。

ロンドン神殿についに足を踏み入れたとき、29年前に夢の中で父の語った言葉の意味が、突然はっきりと分かりました。わたしは今まさに、外国に来て先祖のために神殿の儀式を行おうとしているのです。そのときのわたしの気持ちは言葉には表せません。自えのエンダウメントを終えて日の栄えののエンダウメントを終えて日の栄えののエスを神殿で見かけた昔のシメオン(ルカ2:29-30参照)のような思いたした。わたしもまた、これを経験した今は安らかに死ねると感じたのです。

まさに夢が現実になったのですから。□

牧場鳥

R・バル・ジョンソン
ILLUSTRATION ELECTRONICALLY COMPOSED BY PAT GERBER

6 歳のとき、生きているということを初めて実感しました。それは晩春のあるさわやかな朝のことでした。通学バスの乗り場へ向かう途中、小さな原っぱの真ん中まで来ると、どこからか声が聞こえてきました。「わたしはきれいな小鳥。」声はそう歌っているように聞こえました。それは母が教えてくれた牧場鳥の歌と同じでした。

その歌声を聞いた瞬間,不思議な感覚が体の中を駆け 抜けていきました。立ち止まったわたしは,生まれて初 めて,自分の周りに広がる世界に気づきました。見上げ ると,空はまるで色を変えていく海のように広がり,そ こには柔らかい羽毛でできた船のような形の雲が浮かん でいました。空気はすがすがしく澄み切っていて,日の 光のように明るく輝く黄金色のひまわりが辺りの原っぱ 一面に咲き誇っていました。

牧場鳥がこの地球の美しさに気づかせてくれたのです。そして、わたし自身もその美しい地球の一部であることを教えてくれました。そのときの気持ちを言い表すのは今でもとても難しいのですが、神の存在をこれほど身近に感じたのは、その日が初めてだったでしょう。

また死というものをはっきりと意識したときのことも 覚えています。16歳のころ、わたしは新品の20口径の猟 銃を持っていました。その銃を初めて手にしたときから いつも楽しんでいたように、その日の朝も喜々としてき じ狩りに出かけました。いつまでたっても獲物をしとめ られず、午後の遅い時間になってもまだ、家の北側の丘 を獲物を求めて歩き回っていました。やがて、18メート ルほど先に1羽の鳥が見えたので、すかさず銃を構え引 金を引きました。舞い立つ砂ぼこりと飛び散る羽で、弾 が命中したことを知りました。

駆け寄ってみると、そこには傷ついて地面の上で痛々 しく羽をばたつかせている牧場鳥がいました。近寄って 抱え上げる間もなく、鳥は動かなくなってしまいました。 さっきまでの興奮は急に失せ、みぞおちの辺りがしくしくと痛み始めました。これが自己嫌悪というものであると、このとき初めて知りました。食べ物として必要だったたわけでもなく何の正当な理由もなしに、ただ狩猟という娯楽のために1羽の鳥を殺してしまったのです。わたしは自責の念に駆られました。でも牧場鳥はもう死んでしまったのです。死んだ鳥とともに、青春の一部が消え去っていきました。

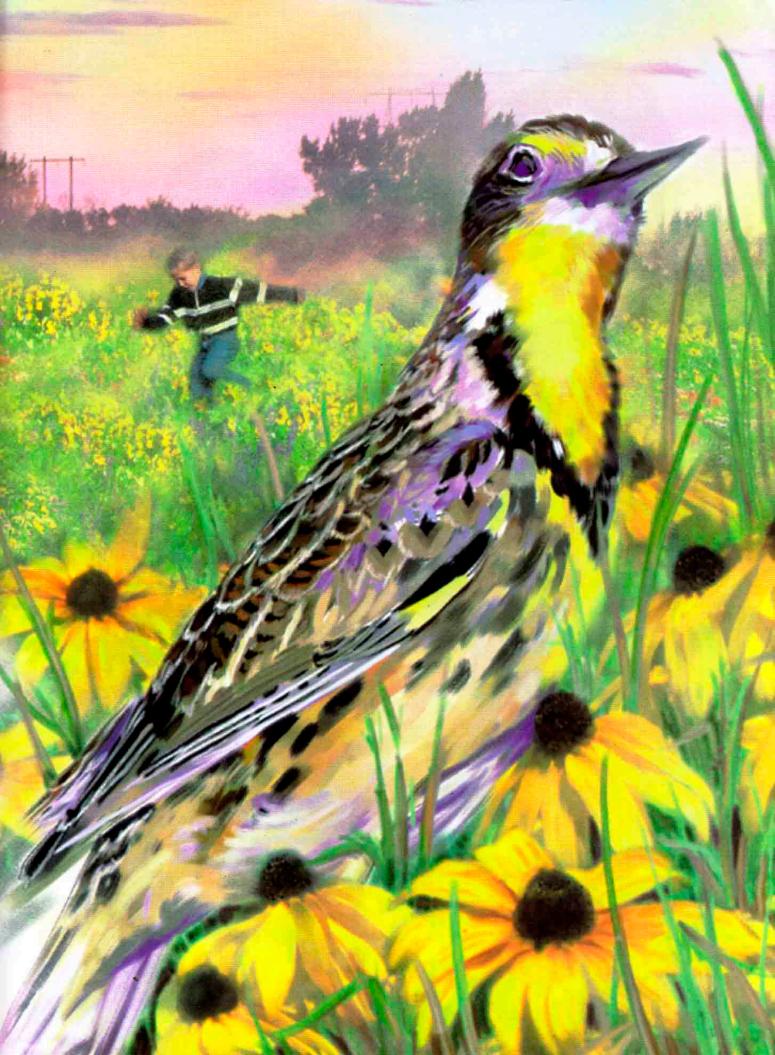
あの日から、命について、そして死についてもたくさんのことを学びました。また、日々の暮らしの必要を満たし、喜びを見いだせるようにと、主がこの地球をお与えくださったことを学びました。けれどもこれら主の恩恵を粗末に扱うのは、主の御心から外れたことでした。主は言われました。「季節に応じて地から生じるすべてのものは、人の益と利用のため、目を楽しませ、心を喜ばせるために造られている。

まことに、食物のため、また衣服のため、味のため、 また香りのため、体を強くするため、また霊を活気づけ るために造られている。

神はこれらのものをすべて人に与えたことを喜んでいる。この目的のためにこれらのものは、思慮分別をもって、度を越さず、資欲に取ることなく使うように造られたからである。

また、すべてのことの中に神の手を認めない者……のほかに、人はどのようなことについても神を怒らせることはない、すなわち、ほかのどのような人に向かっても神の激しい怒りは燃えない。」(教義と聖約59:18-21)

救い主への感謝の思いを心に満たすとき、主の恩恵に心を向け、主がこれらのすばらしい贈り物を下さった訳をいつも思い起こせますように。また、食用のきじだけでなく、野原の牧場鳥をお与えくださったことに対する感謝の心をいつも持ち続けられますように。□



実在する力

ピーター・ポマート

わたしは祭司として、まだ一度もだれかの頭の上に手 を置いたことがありませんでした。そしてついに神権 の力がどういうものであるか学ぶ時が来たのです。

カ ナダ・オンタリオ・ロンドンステークのウインザーワードで、わたしが祭司の職に召されたときない。 若い男性の会長だったサンダー兄弟は、聖餐の祝福やパスをしたり、バプテスマを施したりして神権を行使するように勧めてくれました。さらに日曜日のレッスンでは、アロン神権への聖任時に祝福を与えることについて教えてくれました。サンダー兄弟はこのように言いました。「聖霊が促す言葉を大胆に語れるように。でも謙遜になって、勝手に作り上げた言葉を語ったりしないように。」

そのレッスンの後程なくして、ワードの若い改宗者が アロン神権の教師の職に支持されました。サンダー兄弟 はわたしに聖任するように依頼してきました。わたしは 足がすくむ思いでした。それまでにだれかの頭の上に手 を置いたことはありませんでした。自分では力不足だと 感じました。しかしそうするのはわたしにとって良いこ とである、という確信を聖霊により得られました。そし てサンダー兄弟が教えてくれたことを思い起こしました。 聖任を受ける若い男性がいすに腰かけました。そして わたしはその真後ろに立ちました。準備が整い、サンダ 一兄弟は祈りの言葉をわたしに耳打ちしてくれました。 そしてわたしはサンダー兄弟の語る言葉を一語一句漏ら さず繰り返しました。聖任の言葉を告げ、「あなたに祝 福を授けます」と言った後、サンダー兄弟は、ここから は自分で続けるように、と目で合図しました。

この瞬間、わたしにとって神権はまったく別の意味を持つようになりました。もはや神権は単なる肩書きではありませんでした。実際に神の名によって行う権能であり、今まさにわたしはその権能をほかの人に授けようとしているのです。わたしは間を置いて、御霊がわたしに語るべき言葉をささやくまで待ちました。その祝福の間に感じた気持ちを容易に表現することはできませんが、はっきり言えることは、神権の力が実在するという証がいっそう強められたということです。

1829年に神権が回復されたとき、天使の働きと備えの福音の鍵がジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに授けられました。わたしは、今日もその鍵がこの地上にあり、神権はまさしく神の力であると確信しています。□





50年間 守り続けた信仰

警官は彼女から福音に関する書物をほとんど押収しました。 でも、証までは奪えませんでした。

ホンザ・トムサ

19 94年の晩夏の曇った日のことです。わたしと友人のイベタは、チェコ共和国ムラダボルスラブ市の旧市街に向かっていました。16歳のわたしたち二人は、学校の休みのほとんどを費やして第二次世界大戦前に改宗した教会の会員を探していたのです。共産主義がチェコスロバキア(現在はチェコ共和国とスロバキア共和国として独立)という小さな国を支配している間に多くの教会員が亡くなりました。生存者に関する情報を手に入れるのは時には非常に困難で、あまりたくさんの人々を見つけられませんでした。それでも、可能なかぎりあらゆる手がかりをたどろうとしました。

そしてついに、一人だけを除いてリストにあるすべての人を確認し終えました。わたしたちは、残った最後の人を訪ねて、その人がさらに多くの情報と名前を教えてくれるように願っていました。しかし、ドアを開けて応対に出た女性に、「わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です」と紹介し、その女性のお母さんについて尋ねると、「わたしが教えられることは何もないわ。遠い昔のことですもの」との答えが返ってきました。わたしたちの望みはもろくも崩れ去ったのです。わたしとイベタの二人は失望しながら閉め

「警官が家に何度も来て、わたしたちの持っていた福音に関する本や資料をことごとく押収して行ったの」と彼女はそのときのことを回想しました。「でもね、1冊の本だけ手もとに残せたのよ。それ以来、長年にわたってその本を読んできたわ。わたしはその本に助けられ、守られてきたの。その本は、世の中がどうあるべきかを教えているわ。わたしは、そのような日が来ることを願っているわ。」

られたドアを後にしました。わたしたちの努力は無駄だったのでしょうか。

わたしたちが家に帰る途中、イベタはこう言いました。 「昔教会に集っていた人か、教会員の友人のいる人がまだ生きているはずだよ。戦前の教会について何か覚えていることはないか、年輩の人に一人ずつ尋ねてみたらどうかな。」その方法がほんとうに功を奏するかどうか自信はありませんでしたが、とにかくやってみることにしました。わたしたちは、出会うすべての年輩の人に、教会について知っているかどうか質問し始めました。予想したとおり、だれも教会について知りませんでした。

家に帰る前に、最後にもう一人の人に尋ねてみようと思いました。次に尋ねた人は65歳ぐらいに見える女性でしたが、わたしたちの質問にこう答えました。「ええ、たくさんのモルモンを知っていたわ。みんな、とても善い人たちでしたよ。でも残念なことに、今ではみんな亡くなってしまったわ。」仕方なくわたしたちが別れを告げようとすると、その女性は、非常に年を取ったおばについて話してくれました。「わたしのおばはきっとあなたたちと話がしたいはずよ」と彼女は言いました。

その情報を頼りに、次の日わたしたちがドアのベルを 鳴らすと、中年の女性がドアを開け、わたしたちを家の 中に通してくれました。そして、その女性のおばあさん が部屋に入って来ました。彼女こそわたしたちの探して いた人で、わたしたちに会えてうれしそうでした。何と 彼女は教会員だったのです。彼女は戦前の教会について たくさんの話をしてくれました。それから、ソルトレー ク神殿の古い写真を見せてくれました。

「わたしね,93歳になるのよ」と彼女は言いました。 「50年近くもの間,宣教師がこの国に再び戻って来る日 を待ち焦がれていたわ。わたしが死ぬ前に宣教師が戻っ て来るだろうと思っていたからよ。一度、ある宣教師がわたしの家を訪ねてくれたんだけど、わたしたちの教会から来た人じゃないってすぐに分かったわ。50年前に教会の宣教師から感じた御霊をその人たちから感じられなかったからよ。だからその人たちには帰っていただいたの。」

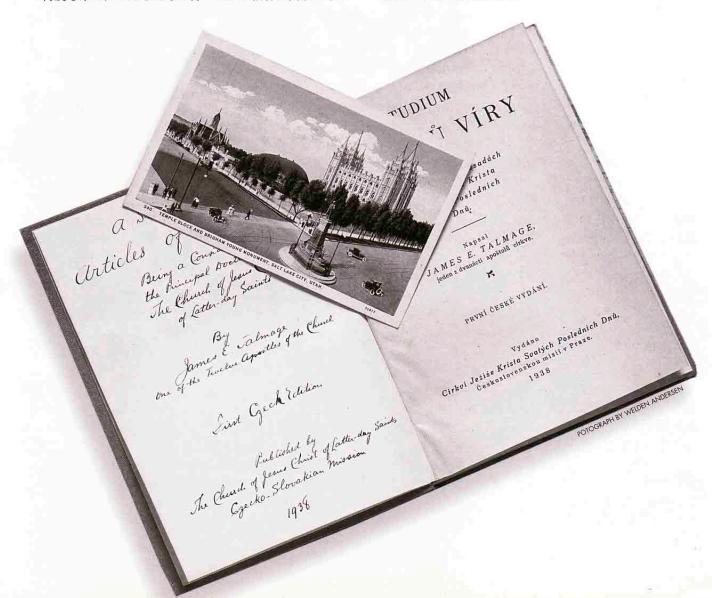
彼女の言葉から、わたしは自分の人生について考えてみました。もしわたしが、50年もの間主の教会と接触がなくても、それほど簡単に御霊を識別できるものだろうかと。このすばらしい女性に対する尊敬とわたしたちをこの女性のもとに導いてくださった天父に対する感謝で胸がいっぱいになりました。

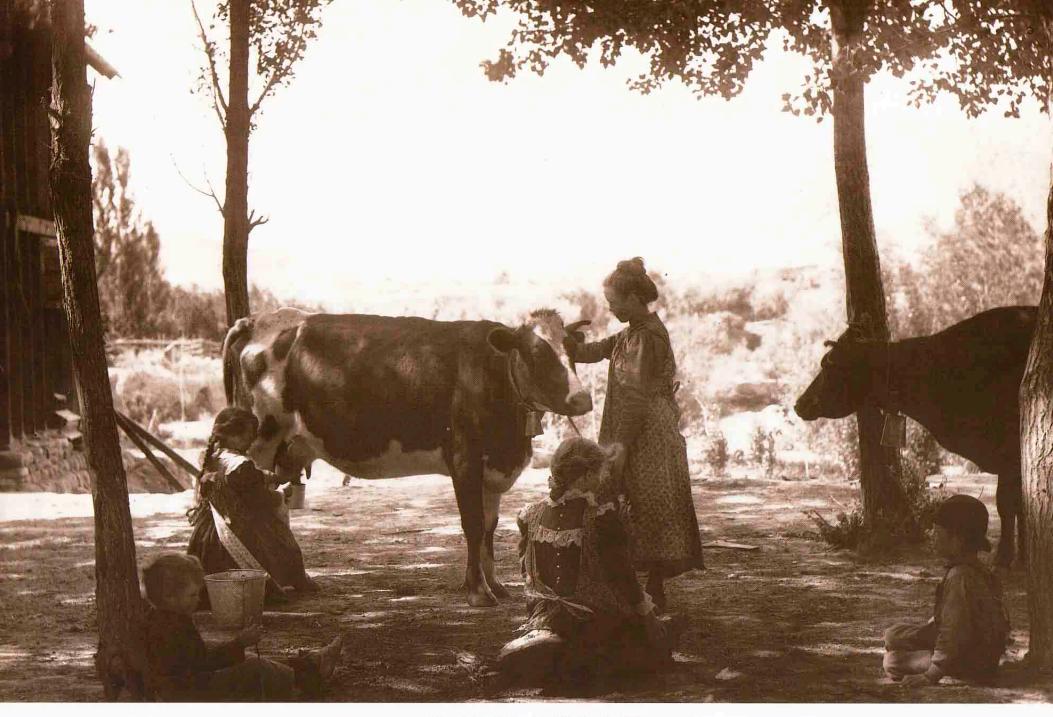
この女性はやがて、わたしたちと一緒に教会に出席することができました。長年の空白の後に最初の聖餐を受けたとき、彼女の目には涙があふれていました。最近、彼女を訪問した際、チェコ語の教会機関誌『リアホナ』を数冊持って行き、しばらくの間話をしました。

「教会の会員が集会を開けなくなった後,警官が家に 何度も来て、わたしたちの持っていた福音に関する本や 資料をことごとく押収して行ったの」と彼女はそのときのことを回想しました。「でもね、1冊の本だけ手もとに残せたのよ。それ以来、長年にわたってその本を読んできたわ。わたしはその本に助けられ、守られてきたの。その本は、世の中がどうあるべきかを教えているわ。わたしは、そのような日が来ることを願っているわ。」

そう言って、彼女はテーブルから1冊の本を取り、わたしに見せてくれました。その本は1938年にチェコ語に翻訳された本で、1911年から1933年まで十二使徒定員会の会員として働いたジェームズ・E・タルメージ長老の『信仰箇条の研究』でした。わたしは驚きました。わたしはその本を一度も読んでいませんでしたが、その本が彼女の人生に与えたすばらしい影響に対して強い証を持ちました。

あの夏、休暇を利用して行った伝道活動を通じ、わたしは多くの教訓を学びました。まだ16歳の少年でしたが、「忍耐」という言葉の意味を知ったのです。主を信じる人々を主は決してお見捨てにならないこともこの経験を通して理解しました。□





ジョージ・エドワード・アンダーソン撮影 1898年、ユタ州ハンティントンで、交替で牛の乳を搾るL・クリスチャン・オットソン家の子供たち。





教会が組織されてから30年後に生まれたジョージ・エドワード・アンダーソンは、教会の史跡や開拓者の生活を写真に収め、すべての末日聖徒にとって貴重な遺産を残した(本誌「ある田舎町の写真家の夢」p.16参照)。



ローカルページ

ヒンクレー大管長, フロリダ, 中央アメリカの会員を訪問



ルイス・アマド兄弟による通訳を介し、ホンジュラスの会員に説教を行うヒンクレー大管長

ードン・B・ヒンクレー大管長は、1月19日より1月26日まで、中央アメリカを歴訪した。教会の大管長が中央アメリカを訪問するのは20年ぶり。1週間にわたる旅行日程の中で、ヒンクレー大管長は7つの国を訪問し、約8万8,000人の会員、宣教師と集会を持ち、おもなものだけでも19回に上る説教を行い、コスタリカやホンジュラスの政府高官に会い、記者会見も3回行った。また1月19日、旅行の途中ではあったが、フロリダで最初に組織されたステークの創立50周年を記念するフロリダ・ジャクソンビル西ステークのステーク大会にも出席した。

今回の旅行には、マージョリー夫人ならびに十二使徒評議会のラッセル・M・ネルソン長老とダンツェル夫人も同行した。この旅行を通じてネルソン長老は数回にわたるスペイン語による

説教を行い,この言葉を母国語とする 聴衆に大きな感銘を与えた。

七十人で中央アメリカ地域会長会会長のウィリアム・R・ブラッドフォード長老とメアリー・アン夫人も、パナマ、コスタリカ、ニカラグア、ホンジュラス、エルサルバドル、そしてグアテマラへの訪問に同行した。グアテマラでの地域大会開催中、地域会長会副会長であるリノ・アルバレス長老ならびにフリオ・アルバラード長老がヒンクレー大管長に随行した。

フロリダ州ジャクソンビル

現在は6つのステークに分かれている 元フロリダステークの境界内から、 5,000人以上もの会員が、2回に分けて 開かれた大会に出席し、ヒンクレー大 管長が語る開拓者についての説教に耳 を傾けた。出席していた人々は、ヒン



6,000人を上回る会員が一同に会したコスタリカでの地区大会の模様

クレー大管長の話を通じて、南アメリカにおける初期の指導者がどれほど多くの犠牲を払ったか思い起こした。南部諸州伝道部の元部長であり、十二使徒定員会会員だったチャールズ・A・カリス長老の助けによって、半世紀前に最初のステークが組織されたことについても話された。

ヒンクレー長老は次のように語った。 「カリス長老は、自分が心から愛する 人々の住む地域である南アメリカにス テークが組織されるのを しました。これは彼の生涯にとって身 に余る光栄となることでしょう。」

ヒンクレー大管長は出席している人人に、開拓者となるよう力説した。「現在、このフロリダ州には10万人もの教会員がいます。ステークが22、伝道部が4つ、またオーランドには美しい神殿が建っています。世界中で教会がすばらしい発展を遂げていますが、皆さんもその一翼を担っています。……

ヒンクレー大管長は、さらに続けてこう語った。「わたしたちには偉大な 御業を推進するという義務があります。安座しているわけにはいきません。 前進しなければならないのです。それ がわたしたちの責任です。」

大会の出席者は、礼拝堂と文化ホールを埋め尽くした。また、教室を含むあらゆるスペースが満員で入り切れないほどになった。さらには、もっと多

くの会員が集えるようにと, 駐車場に 大きなテントが組み立てられた。

パナマのパナマ・シティー

フロリダでの滞在に続いて、ヒンクレー大管長はパナマのパナマ・シティーへと旅立った。1月20日、同市において午前9時の集会に集った3,000人を超える会員を対象に説教を行った。

ヒンクレー長老は出席者に次のように語った。「皆さんは、バプテスマを受けたときに、この世のものを捨てました。毎週、安息日に聖餐を受けるとき、自分を天父と結びつけるその聖約を新たにするのです。」

フロリダと同様、パナマでもヒンクレー大管長は初期の教会員がささげた 犠牲について語った。ヒンクレー大管 長は、ヒンクレー姉妹の祖母メアリー・ゴーブルの経験を紹介した。メアリー・ゴーブルは10代のときに、あの 悲運の手車隊ウィリー隊とマーティン 隊の後に続いたホジェット荷車隊の一 員として荒れ野を横断したが、凍傷の ため結果的には足の指を切断しなければならなかった。

「開拓者に感謝しましょう。わたしたちは彼らの信仰のゆえに、今こうして数多くの恩恵にあずかっています。 開拓者たちがロッキーのふもとに定住するようになってから、回復された福音の祝福が全世界に住む人々に伝えられるようになったのです。」 ヒンクレー大管長は、各会員が神殿 推薦状を受けるにふさわしい聖さを保 つことの大切さを強調した。「神殿推 薦状を保持していることが、……忠実 さの証と言えます。もしまだ推薦状を 受ける資格がないとすれば、今日この 日こそ、その資格を得ようと決心する 日です。」

会員との集会に続いて、ヒンクレー 大管長と彼に同行している人々は、パ ナマのパナマ・シティー伝道部で働く 177人の宣教師に会った。

コスタリカのサンホセ

同じ日の午後、ヒンクレー大管長一行は空路コスタリカのサンホセへと向かった。ヒンクレー大管長は、まず最初にこの地域で働く200人以上の宣教師と会い、彼らのために世界中で数多くの人々が祈っていることを思い起こさせた。

翌日、ヒンクレー大管長は、コスタリカのホセ・マリア・フィゲレス大統領に会い、この国で伝道する宣教師を温かく迎えてくれることに感謝の意を表明した。ヒンクレー大管長と、同席していたネルソン長老、ブラッドフォード長老は、フィゲレス大統領に『家族の宣言』の写しを寄贈した。

ヒンクレー大管長は6,000人以上の会員と集会を持ち、彼らを「コスタリカにおける教会の力」と呼んだ。また新しい改宗者に対するフェローシッピングの大切さを強調した。

「わたしたちにはそのような改宗者 がいつも活発であるように……フェロ ーシップをし、友情をはぐくむ義務が あります。毎日手を差し伸べなければ なりません。わたしはコスタリカで改 宗したすべての男女, 子供たちがいつ までも忠実かつ活発であるようにと心 の底から願っています。この願いは, ここに集う6,000人一人一人が、新しい 改宗者に援助の手を差し伸べようと決 意するときに実現するでしょう。…… 改宗者は自分だけの力で信仰を維持す ることができません。……皆さんの助 けが必要なのです。ほかの人に援助の 手を差し伸べる人こそ, 真の末日聖徒 です。」

ヒンクレー大管長は、話の締めくく



二カラグアでの集会の後、手を振って会員にこたえるヒンクレー大管長

りとして、福音に従った生活をするよう出席者に励ましを与え、次のように語った。「世の人々がわたしたちの存在に気づき、わたしたちの模範に従いたくなるような、そのような生活を送りましょう。」

ニカラグアのマナグア

ヒンクレー大管長一行は次に、およそ2万1,000人の会員が住むニカラグアを訪問した。1月21日の9時から始まった集会には2,400人の会員が出席した。

「わたしたちは、皆さんをほんとうにとれています」とヒンクレー大管とは出席者に語りかけ、証がを献身的いるにない。また会員が直面していいるように調した。また会員が直面していのようにおいた。「わたしは皆で直面しなが日で多くにはできているとを知っています。明日の食人が日であるとを知っています。皆さんは過みをといます。皆さんにもわたってたくさんの苦しみもといます。しかし、以前よりをはいるにもわたってたくさんの苦した。といし、以前よりを生活が少しずつ向上してきている様子を

見ることができ、感謝しています。皆 さんのうえに主の豊かな恵みが注がれ るように祈っています。」

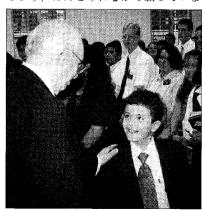
ヒンクレー大管長は特別な気持ちを 込めて次のように語った。「主は皆さんを愛しておられます。計り知れない ほどの愛で皆さんを見守っておられる のです。……わたしはニカラグアのマナグアで目にしたこのすばらしい光テ を決して忘れないでしょう。」ヒント で付な世にあって確固として立つための大きな支え」と呼び、末日聖徒イエス・キリスト教会が存在するのは、「会員が援助、教育、奉仕の機会、生ける神の言葉にあずかるため」であると聴衆に語った。

ニカラグア滞在中、ヒンクレー大管 長は同地域の地方部長だけでなく、ニ カラグア・マナグア伝道部で働く宣教 師にも会った。

ホンジュラス

ヒンクレー大管長は、次にホンジュ ラスのサンペドロスーラに足を運ん だ。まず予定どおりにホンジュラス・ サンペドロスーラ伝道部で働く191人の宣教師と集会を持った。

ヒンクレー大管長は次のように宣教師に語った。「(新会員が)心からの改宗を遂げ、自分から進んで入った教会を去ることがないようにしなければなりません。彼らがいつも信仰深く、活発であり、勤勉で、福音を基とする生活をし、末日聖徒に期待されるすべてを行うようになるのは、とても大切なたとです。皆さんの施すパプテスマが教会への真の改宗を意味するものとなるよう、ほんとうに心から願っていま



ホンジュラスで少年と言葉を交わすヒンクレ 一大管長

す。

その夜の集会でヒンクレー大管長は、 国立体育館に集った8,000人以上の会員 に説教を行った。「教会が皆さんの生 活の中心となるように願っています。 教会を基とする生活をし、教会を愛し、 教会について祈り、教会のために皆さ んの娘、息子を伝道に送り出し、召さ れた責任が何であれ教会での奉仕にい そしむように願っています。」

1月22日、ヒンクレー大管長はホンジュラスの首都テグシガルパに到着した。ここでヒンクレー大管長は『ラ・トリブナ』(La Tribuna) 誌を代表する記者のインタビューを受け、ホンジュラス・テグシガルパ伝道部で働く224人の宣教師と集会を持ち、ホンジュラス駐在のアメリカ大使ジェームズ・E・クリーガン氏を表敬訪問し、さらには1万5,000人の末日聖徒のために野外サッカー競技場でファイヤサイドを開いた。

『ラ・トリブナ』誌とのインタビュ ーの中で、ヒンクレー大管長は、末日 聖徒イエス・キリスト教会は会員が政 治に関心を持ち、選挙権を行使するよ う奨励していると説明した。ホンジュ ラスの人々にどのようなメッセージを 伝えたいかという質問に対し、ヒンク レー大管長は次のように答えた。「善 良な民であってください。隣人と仲良 く暮らしてください。お互いに尊敬し てください。お互いに感謝し、協力し てください。このようなことに関し、 何でも教会としてお役に立てることが あれば、そうしたいと願っています。 わたしたちの民がこの国の誉れとなる よう, またすべての人々がわたしたち のもとに来て、学び、わたしたちの仲

エルサルバドルで報道機関レポーターとのインタビューに応じる ヒンクレー大管長

間になるように望んでいます。」

宣教師との集会で、ヒンクレー大管 長は新しい言葉を学んでいる宣教師た ちに励ましを与えた。「今やスペイン 語は、教会の第2言語になりました。 決してこの言語の能力を失わないよう にしてください。」

この集会の後、ヒンクレー大管長は クリーガン氏に会った。同氏は、ホン ジュラスにおける伝道活動について質 問し、サンペドロスーラ地区での大洪 水の際に教会が人道的援助を提供した ことに感謝の意を表明した。

ヒンクレー大管長は、夜になると、 野外集会で何千人もの会員と集会を持 ち、教会員に与えられるいろいろな知 識と機会について説教を行った。「皆 さんはバプテスマを受けてこの教会に 入ったときに、神に関する神聖な事柄 について理解する力を……上から授か りました。皆さんは選ばれた世代の人 人であり,わたしの兄弟姉妹なのです。 また,この時代に生を受け,永遠の福 音によってもたらされる数々の祝福に あずかるべく、全能の父なる神の偉大 な計画の中で取っておかれた人々なの です。この時代、この時期に生まれ、 神の驚くべき啓示に関する光と知識, 理解力を主から授かったことに感謝し てください。」

エルサルバドルの サンサルバドル

次にヒンクレー大管長一行は、エルサルバドルのサンサルバドルに向けて飛び立った。ここでヒンクレー大管長は『ラ・プレンサ・グラフィカ』(La Prensa Grafica)誌のレポーターから、インタビューを受けた。また、エルサ

ルバドル・サンサルバドル東・西両伝道部から集まった374人の宣教師と集会を持った。

宣教師との集会中、ヒンクレー大管長は先に行った報道関係レポーターとのインタビューについて紹介した。「そのレポーターから、わたしはこう尋ねられました。「あなたの教会の宣教師は、エルサ

ルバドルの国民に何を提供するよう指 導されているのですか。』わたしは、 皆さんが提供するのは、より良い生き 方にほかならないと答えました。エル サルバドルの国民は、自分たちが神の 息子、娘であること、また豊かで、す ばらしい, 目的のある人生を送ること ができることに気づいていません。皆 さんは『知恵の言葉』を提供します。 家族とより良い関係を築く方法も提供 します。また主の宮に付随する数々の 偉大な祝福も提供すべく携えていま す。この祝福はふさわしく生活するす べての男女に与えられるものです。… …皆さんは、天父がその子供たちに与 えようと願っておられるあらゆる幸 せ、あらゆる喜びを伴う生活、すなわ ち永遠の命に至る道を提供するので

その夜、ヒンクレー大管長は、約1万人の会員と集会を持った。その中の多くは何百マイルもの道のりを旅して来た人々であった。その集会で、ヒンクレー大管長は両親に向けて説教を行った。「父親、母親の皆さん、皆さんがこの世での命を与えた小さな子供たちにど大切なものはほかにありません。この子供たちをよく世話し、教え、愛し、主の薫陶と訓戒の中で正しください。もし、これに反することを行うならば、神はその親に責めを負わせられるでしょう。」

グアテマラ

ヒンクレー大管長一行は、中央アメリカ歴訪における最後の2日間をグアテマラで過ごした。3万5,000人を超える会員がグアテマラ・シティー中央、北地区大会の2回に分けて行われたセッションで、ヒンクレー大管長の説教に耳を傾けた。大会に引き続いて、12のステークからおよそ1,000人の指導者が神権指導者会に集まったが、そこでも説教を行った。700人の宣教師が集まった集会でも説教を行い、報道関係者のインタビューにも応じた。

大会を終わるに当たって、ヒンクレー大管長は知恵の言葉、什分の一、神権について証を述べた。また「ごく少数の例外を除き、出席者のほとんどがこの教会への改宗者であり、その結果



グアテマラでの地区大会に出席する家族。2回に分けて行われたセッションでは、3万5,000人を超える会員がヒンクレー大管長の説教に耳を傾けた。



彼らの生活に大きな変化がもたらされた」ことに言及し、伝道活動の大切さについて語った。

ヒンクレー大管長は、神殿の大切さ についても強調した。「この国に中央 アメリカで唯一の神殿があります。中 央アメリカのほかの国も、この国と同 様, 神殿を建てるにふさわしい国では ないでしょうか。しかし、神殿はこの 国に建設するように決定されたので す。この国に神殿が建ち、皆さんはそ の神殿を利用することができるので す。わたしは今この手に神殿推薦状を 持っています。ネルソン長老も, ブラ ッドフォード長老も持っています。わ たしたちは一人も欠けることなく神殿 推薦状を持っていなければなりませ ん。……すべての成人が神殿推薦状を 所持し,神殿推薦状を大切にし,神殿 推薦状にふさわしく生活し, 神殿推薦 状を使うように願っています。」□

ヒンクレー大管長の中央アメリカ歴訪に関する報告を掲載するに当たり、以下の方々の協力を頂きました。ルイス・アルバレス、パトリシア・デ・フエンテス、ホセ・アルベルト・サントス、アンヘル・マヌエル・バエ、サンドラ・ハアル、ダリル・タウンセンド伝道部長、ジェニー・ディアス、マリオ・ガブリエル・ヒメネス、ロメリア・ガルシア。

好意的なマスコミ報道

央アメリカ歴訪中、ヒンクレー 大管長は幾つかの新聞社を代表 する人物と会った。以下に記すのはヒ ンクレー大管長の訪問後、掲載された マスコミ報道からの抜粋である。

「善良な民となり、お互いに尊敬し、勤勉に働き、家族を強める、……これが今週我が国を訪問した末日聖徒イエス・キリスト教会の預言者、ゴードン・B・ヒンクレー大管長からのメッセージである。……」

「末日聖徒イエス・キリスト教会の 指導者が今週、中央アメリカを旅して 回り、サンペドロスーラ、テグシガル パを訪問、両方の都市で開かれたそれ ぞれ2回の集会で2万人の人々と集会を 持った。」

「ヒンクレー大管長は、そのメッセージを聞くために大会に出席していた何千人ものホンジュラス人に、社会の基盤であると同時に国家の力でもある家族をいろいろな方法を講じて強めるようにと勧めた。『強固な家庭からなる国は、やがて強固な国家となる』とヒンクレー大管長は語った。……」

「ヒンクレー大管長は、もう86歳に もなるが、青年のようなエネルギーと 人柄に恵まれた人物で、何を質問され ても、簡潔で、明確、そして屈託なく 答えた。」

「青年のような足取り、快活な心、 長時間にわたる激務もいとわぬ人並み 外れた性格、ヒンクレー大管長はどこから見ても自分たちの知る中で最も若い86歳の男性というのが、彼に付き従う人々の感想である。」(1997年1月25日付け、ホンジュラス・サンペドロスーラ『ラ・トリブナ』誌)

「(ヒンクレー大管長は) 次のような 所見を述べて、 自らのメッセージのは しがきとした。『この地域を訪問して いる間、わたしたちはそこに住む人々 との交流を深めることができました。 わたしたちはこの国に許されている平 和と、この国の政府の努力に感謝して います。この国はすばらしい国です。 教会を代表する者として, わたしたち に親切を尽くしてくれました。わたし たちも各家族が家庭の務めにいそしむ よう励ますことで、この国を強めるお 手伝いができるのではないかと思って います。』」(1997年1月29日付け,グア テマラ・シティー『プレンサ・リブレ』 [Prensa Libre] 誌)

「ヒンクレー大管長は、会員数はすでに7万2,000人(エルサルバドル人)に達し、現在も毎年5,000人の割合で増加し続けていると語った。『ラ・プレンサ・グラフィカ』誌とのインタビューで、ヒンクレー大管長は『わたしたちはこの地域に並々ならぬ関心を抱いています』と語った。」

「末日聖徒イエス・キリスト教会が, 信仰の面でほかの教派とどのように違 うかという説明として、ヒンクレー大管長は『わたしたちは神の啓示を信じています』と語った。ヒンクレー大管長は、同教会におけるほかの指導者と同様、スーツとネクタイという出で立ちで、格好は普通の聖職者と変わらなかった。……」

「ヒンクレー大管長は,『わたしたち は世の中で生活していますが,この世 のものとならないようにしています』と述べた。また、同教会における厳しい健康の標準ならびに取ってはならない有害なものについて、次のように語った。『わたしたちにはこのようなものは必要ありません。このようなものがなくても、豊かな生活が送れるのです。』」

「ヒンクレー大管長は、家族が激し

い攻撃を受けている現代の世の中にあって、教会は家族の結束を奨励し、平和な生活を送るという希望を会員に与えていると語った。『もし国家を引き上げたいと望むならば、家族を引き上げなければなりません。なぜなら家族は社会の基本単位だからです。』」(1997年1月25日付け、エルサルバドル『ラ・プレンサ・グラフィカ』誌)□

教会の方針と発表 — 開拓者記念全世界奉仕日について

大 管長会は教会の全神権指導者に 対し、以下の手紙を送った。

「本年度は末日聖徒の開拓者がソルトレーク盆地に到着してから150周年を記念する年です。またこの150年記念祭は、世界中で教会の確立に尽力し

たあらゆる時代・地域の開拓者を敬う 年でもあります。

わたしたち大管長会は、1997年7月19日(土)を開拓者記念全世界奉仕日と 定め、すべてのワード・支部に、可能 な場所で少なくとも合計で150時間に 及ぶ社会奉仕を行うようお勧めします。過去の開拓者たちの犠牲のうえに立って、現在、恩恵を享受しているわたしたちは、一致協力して愛のこもった奉仕を地域社会で行うことにより、感謝を示すことができます。

わたしたち大管長会は、神権指導者 の皆さんがこの奉仕日に地元で奉仕活 動を計画、調整するよう奨励いたしま す。

ローウェル・D・ウッド長老の葬儀 しめやかに行われる

ソルトレーク・シティー発

十人第二定員会会員で太平洋地域会長会会長を務めるローウェル・D・ウッド長老が3月7日、サモアで教会業務に従事する間に逝去した。享年64歳。葬儀は3月12日にソルトレーク・シティーでしめやかに行われ、参列者には家族や友人のほか、大管長会をはじめとする中央幹部も名を連ねた。

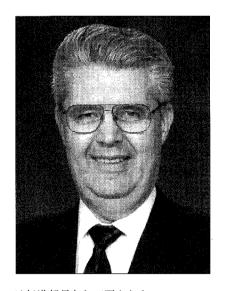
葬儀の席上、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、アルバータ州の小さな町かにドストンに生まれたウッド長老が今日に至るまで長い距離を旅し、広い範囲にわたる地域を訪れ、数多くの功績を上げたことに触れ、次のように述べた。「ウッド長老の生涯は、注目に値する驚くべき方法によって、建設的に築き上げられました。」

また、太平洋地域の副会長として、これまでウッド長老を補佐してきた七十人のブルース・C・ヘーフェン長老と地域幹部のフィリップ・G・ミッチ

ェル長老から弔辞が寄せられ、十二使 徒定員会のジョセフ・B・ワースリン 長老によって読み上げられた。

「太平洋の聖徒たち」を代表して寄せられた両長老からの弔辞の中で、シオンを築く基となったウッド長老の献身については、次のように述べられた。「ウッド長老の働きのおかげで、ここ数年にわたり、太平洋地域はほんとうに霊的に再生され、祝福を受けてきました。」

ウッド長老は、ブリガム・ヤング大 学で学士号を取得、その後モンタナ州 立大学で修士号、カリフォルニア大学 バークレー校で農業経済学博士号をそ れぞれ取得した。1969年から、ブリガ ム・ヤング大学の生物農業科学学部に 入り、後にエズラ・タフト・ベンソン 農業食物研究所の初代理事となった。 その後教会福祉部で働き、1979年、青 年期に専任宣教師として働いた南アフ リカ・ヨハネスバーグ伝道部に、今度



は伝道部長として召された。

伝道部長の任期を終えると,教会福祉部での職務を再開した。その後,ニュージーランド地域管理本部において実務担当の地区役員として管理監督会の下で働き,その後,アジア地域監督の職務に就いた。1992年6月6日,七十人第二定員会会員に召されたときは,フィリピン/ミクロネシア地域監督として働いていた。

ウッド長老の遺族には、ローナ・コックス・ウッド夫人と5人の子供たち、13人の孫がいる。 \square

ソレンセン会長,松本市長と歓談

- 姉妹都市関係の

ソルトレーク・シティーと松本市-

★ 国ユタ州ソルトレーク・シティーと長野県松本市は、1958年から姉妹都市として、両市民の間には深く、親しい交流がありました。

この39年に及ぶ姉妹都市としての歴 史の間に、たくさんの市民が互いに訪 問し、白く輝く峰々を見上げて「似て いますね」と言い交わしてきました。 さらに1976年には、長野放送とソルト レーク・シティーのKSL放送が姉妹 局として提携し、1978年には信州大学 とユタ大学が姉妹大学となり、その間 柄はさらに深くなりました。

3月1,2の両日開かれた長野地方部大会出席のため、当地を訪れたアジア北地域会長会のデビッド・E・ソレンセン会長夫妻と日本宣教師訓練センター所長のM・トム・清水長老夫妻は、3月1日(土)午後、松本市長の有賀正氏、および松本商工会議所専務理事の本郷文夫氏とともに松本市内のホテルで会合を持ち、1時間余りの間、和やかなひとときを過ごしました。

この会合には、高瀬満地方部長と開拓者150年祭を記念する「開拓者の道」 (「モルモン・パイオニア・トレイル」) の旅に参加を予定している東京北ステーク中野ワードの関口治夫婦も同席 し、この旅に持参する松本市長のメッ セージを頂くことになりました。

この会合の模様は、NHKテレビ, 長野ケーブルテレビ,信濃毎日新聞の 取材を受け、放映、報道されました。

この会合で、ソレンセン長老は、祖 先の救いを大切にする末日聖徒の系図 探求について触れますと、有賀氏も十 数代にわたる系図を作成しているの で、ぜひお見せしたいとの話がありま した。

翌日の早朝,ソレンセン長老夫妻,清水所長夫妻は,松本市長宅を訪問し,朝食を交え歓談しました。また,清水所長夫妻は,長年ユタ州の政治家として働いた経験から,松本市には知人が多く,前松本市長の和合正治氏なども訪問して旧交を温めました。

長野地方部は、ユタ州と長野県との関係も支えとし、信仰を込めて一歩ずつここにシオンを確立してまいります。(レポーター:浅間玄也、長野地方部第一副部長)



松本市長の有賀正氏(左端)と話し合うデビッド・E・ソレンセン長老夫妻

松本市長を訪問して

東京北ステーク中野ワード 関口 治

「系図のことについて話してはどうでしょうか。」デビッド・ E・ソレンセン地域会長がわたしたちに提案されたのは、市長が到着する5 分前のことでした。

長野地方部長会の方々や広報ディレクターの働きによって、3月1日(土)に松本市の有賀正市長、ソレンセン地域会長夫妻、日本宣教師訓練センターのM・トム・清水所長による会合が実現しました。その場にわたしたち夫婦

も招待を受け、ソルトレークの姉妹都市である松本市の市長からの書簡を、100日間の「開拓者の道」(「モルモン・パイオニア・トレイル」。関連記事――本誌ローカルページ1997年4月号、pp.14-15参照)の旅を通してソルトレーク市長へ届ける提案をする予定でした。

「系図について?」その提案は、わたしたちにとって意外なものでした。 開拓者の歴史や150周年を記念する旅の話題が中心になるものとばかり考え ていました。「市長との会合になぜ系 信濃毎日新聞』一九九七年三月二日付け

「開拓者の旅」 姉妹都市に伝言を

さん夫妻は

図の話が必要なのだろうか。」妻とわ たしは, どの時点でそのような話題を 切り出すのかと、 間際になって戸惑い を覚えました。

会合が行われるホテルの場所以外, 何も知らなかったわたしたちは、そこへ 行けば主が道を備えてくださるというこ とだけを信じて、東京から松本まで高速 道を走り続けて来ました。ほんとうに道 が備えられるのか不安が募ります。

取材に駆けつけたNHK, 長野ケー ブルテレビ, 信濃毎日新聞の質問は, オマハからソルトレークまでの旅につい て、準備状況、インターネットでの交流 についての話題に集中しました。系図の 話をする機会などまったくありません。

その後,有賀市長,松本商工会議所 専務理事の本郷文夫氏を囲むように席 が用意され、話題は1958年からの姉妹 都市の歴史、両市民間の様々な形での 交流や清水所長のユタでの政治家とし ての思い出などに及びました。そして, それらの話に交え、ソレンセン長老が 市長に「系図」について語り始めまし た。教会が家族歴史の活動に力を入れ ていることについて、またその理由に ついて説明を始めたのです。

すると市長は「何代ぐらいさかのぼ れるのか」と尋ねられ、系図の話につ いては特に興味を持たれているのが周 囲にもはっきりと伝わってきました。 市長は御自身の家系図について触れ, 十数代に及ぶ家系図をぜひとも見せた いと言われました。しかしながら翌日 に長野地方部大会を控えたソレンセン 長老は、数回、その申し出を丁重に断

られました。それでも市長は秘書に予 定を確認させ, 折れる様子がまったく ありません。最終的には, 市長の強い 申し出により, 翌日の早朝に市長宅を 訪問する運びとなりました。

3月2日(日)の早朝、ソレンセン長老 夫妻,清水所長夫妻は,市長宅を訪問 し、朝食を交え歓談し、親交を深める こととなったのです。

後にソレンセン長老は、「その場にエ リヤの霊がとどまっているのをだれも が感じた」と語られました。

時にわたしたちは、どのように主の 業を進めるのか、何をしたらよいのか 迷うことがあります。しかし、主の栄 光が現れるように努めるときに, 主御 自身が道を備えてくださると知ること ができました。

長野地方部の大会でも、 ソレンセン 長老は、教義と聖約第58章9節から10 節を引用し, 市長との会合について話 されました。「まことに、よく備えら れた主の家の晩餐に、すべての国民が 招かれるであろう。まず, 富者と学者, 知者と貴人が招かれる。」

人々を招くのはわたしたちではなく, 主御自身であると知ることができま す。主が望まれる場所へ赴けば, 道は 開かれると強く感じる貴重な経験でし た。(せきぐち・おさむ 副監督)

町田・横浜ステーク合同 ユースカンファレンスからのレポート

韋 浜市こども自然公園青少年野外活動センターを会場に,町田・横浜ステー **作実** ク合同のユースカンファレンスが3月26日から28日までの日程で開催され た。また2日目からは、札幌ステークの青少年(指導者も含め約30人)も加わり、 総勢170人が参加。それぞれのステークの持ち味を生かしながらの活動となった。 以下に3ステークの参加者からのレポートを掲載する。

感動的なユースカンファレンス 福音の実践の場として-

町田ステーク若い男性会長 小峰典之

ースカンファレンスに指導者と して参加するのは、今回で5回 目かと思います。わたしにとっては, いつも感動させられる経験となってい ます。

常に、最後が証会で締めくくられる のが、2泊3日のユースカンファレンス のパターンとなっています。青少年た ちは,この短い期間に,相互に影響し 合い, 信仰を強くし, 霊性を高め, 証 会で御霊に満ちた証を述べてくれま す。今年も、そのようなすばらしいユ ースカンファレンスになりました。

今回の合同カンファレンス全体を通 して、わたしがいちばん感じたのは, 短い準備期間,経験の少ない青少年中 心での準備、大人数の参加者など、い ろいろと困難な状況の中, 比較的スム ーズに各プログラムが進行していった ことです。これは、一つの信仰を持っ

た青少年が集まったこと,青少年の代表として働いた委員会(青少年で組織された実行委員会)の努力,そして何よりも、神様の助けによってもたらされたものと思っています。

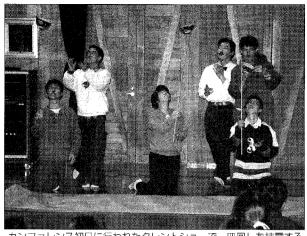
また、町田ステーク、横浜ステーク、 そして2日目から加わった札幌ステークの青少年も、お互いにいろいろ啓発されたようで、「互いに学ぶ」という一つの目標は、十分達成されたものと感じています。

特に委員会の一員として働いた青少年にとっては、様々なことを感じ、思い、悩み、考えてこの時期を過ごしたことと思います。彼らが、カンファレンスの経験を通して大きく成長しているのを強く感じました。

この成長は、神様に頼ること、ユー

ス参働し仕無にを福にも感験にられているといこを合て実もわまっという立めに分互とからなるさはこ仰っまかに分互に分互に対した。信いはないとかに分互にがと知わ、践たらし。何っはといいとちとたく経活も。

青少年たちに、このようなすばらしいプログラムが与えられていることを、神様に感謝したいと思います。そ



カンファレンス初日に行われたタレントショーで、皿回しを披露する 町田第一ワードの青少年

して指導者の提案に素直にこたえてく れる青少年たちに感謝したいと思いま す。(こみね・のりゆき)

それぞれのステークの持ち味を生かしながら

- 相互に啓発され、強められたユースカンファレンス-

横浜ステーク若い女性会長 三浦千絵

横 浜ステークの青少年にとって, ユースカンファレンスは, 同じ

信仰を持つ友達を作り、証を強め、成 長する機会として大切なプログラムと なっています。

今回の町田・横浜ステーク合同のユ ースカンファレンスは、横浜ステーク だけでなく、もっと多くのステークの子たちと交流したいという希望から町田ステークと合同で行われました。また神殿参入に来ていた札幌ステークの青少年も参加し、約170人の盛大なカンファレンスとなりました。

そのため、計画の段階から、実行委員の青少年は、苦労しました。特に、 それぞれのステークの持ち味を生かし ながら、一つにするということは、な かなか難しいことでした。しかし、お



町田・横浜ステーク合同ユースカンファレンス。2日目から札幌ステークの青少年が加わり、総勢170年の参加者となった。

互いの特色を学ぶ機会となり、啓発し合うことができました。また、参加した子たちは、より多くの友達を得ることができました。

今回は、「神の子としてふさわしくなろう」というテーマで行われました。プログラムは、自分たちの手形を布に張り、神の子として何をすべきか目標を書いたり、各ワードのタレントショー、野外炊事、ダンス、セミナリー、ディスカッション、証会など盛りだくさんでした。

最終日の証会では、いろいろな思いを抱きながら参加した一人一人のすばらしい証が続きました。悩み事があったとき、周りの人に助けられ主を信仰する気持ちが強まったこと、委員長会を行っていくときに、祈りを通して大切なことを学んだこと、ユースカンファレンスに参加することによって、この教会には何か大切なものがあると心で感じられたといった証が続きました。

彼らの姿を通して、神様がわたした ち一人一人に関心を寄せ、それぞれの 祈りにこたえ、導きや助けを与えてくださることが分かりました。指導者としてユースカンファレンスに参加した子たちが、信仰が強まり、変わっていく姿を見るのは祝福です。

青少年の時期は、今まで教えられてきた福音を自分の意志で実際に行って、自分の証を得るときだと思います。 青少年にとって、ユースカンファレンスのようなプログラムは、学んできたことを実際に行う絶好の機会なのです。(みうら・ちえ)

町田・横浜ステーク合同 ユースカンファレンスに参加して ―― 悩みと信仰の喜びを語り合えた2日間―

札幌ステーク白石ワード 長谷川修平

しず くたち札幌ステークの青少年は、3月27日に神殿訪問をして、その後で町田・横浜ステーク合同のユースカンファレンスに参加しました。

ぼくたちがカンファレンス会場に到着 したとき、町田・横浜の兄弟姉妹は, ゲームの真っ最中で、ぼくたちは入っていけないのではと思いましたが、彼らは快く迎えてくれました。その後で昨年と同様にダンスを行いました。ぼくを含めて札幌グループの何人かは、昨年も横浜ステークのユースカンファレンスに参加しましたが、彼らのパワーには、圧倒されました。

その夜に「ボンファイヤー」という,

ぼくたち札幌ステークの青少年には聞き慣れない活動がありました。その活動というのは、年齢別にそれぞれの部屋に集まり、普段の信仰生活や証について話し合うもので、ぼくたちには初めての経験でした。その場での町田・横浜の兄弟姉妹は、先ほどまで楽しく遊んでいた彼らの姿ではなく、従順な末日聖徒としての姿でした。

彼らの信仰と証には、とても大きなものがありました。教会内外の友達関係や悩み、今の自分の生活と信仰生活との葛藤、またこのユースカンファレンスでの信仰や証の意義と必要性について話し合いました。最初は、ぼくらに



聖徒の道/1997年6月号

とって初のこの試みに戸惑いながらも, だんだんと話し合いの中に入っていき ました。中には,ぽくと同じような悩 みを持っていたり,似たような考えを 持っていたりする人がいて,とても勇 気づけられました。

また,ユースカンファレンス最終日 の証会がとても印象的だったことを覚 えています。みんなとても積極的に壇上へ上がり、それぞれが今回のユースカンファレンスによって証が強められたことや準備期間に助けてくれた人のことなど、ほとんどの兄弟姉妹が涙を流しながら証していました。前日の夜の「ボンファイヤー」で、たくさんのことを語り合った兄弟姉妹が、とても

御霊のあふれる証をしていました。

その後、横浜の会場を後にしたわけですが、ぼくたち札幌ステークの青少年は、彼らから学ぶべきことがたくさありました。お互いに霊的に成長していくために、これからも合同のユースカンファレンスを続けていけたらよいと思います。(はせがわ・しゅうへい)

ワードの広報委員に召され

ワード新聞を通して 伝道のお手伝いができれば



札幌ステーク 旭川第二ワード 馬場憲仁

わたしは、旭川第二ワードの広報 委員に召されて約3年になります。この召しを通して様々な祝福を受けています。例えば、家族の中でわたしだけが教会員なので、家族に教会のことを自然に紹介するきっかけともなっているからです。

漫画家の教会員の紹介から

わたしが、末日聖徒イエス・キリスト教会を知るようになったのは、教会員の漫画家である飛鳥昭雄さん (ペンネーム) の紹介によってでした。

今から4年ほど前の15歳のとき、わたしは美術系の専門学校に通うために、旭川から札幌に出て寮に入っていました。以前に、飛鳥昭雄さんへあてたファンレターの返事に、宣教師のことが紹介されていました。家族と離れて住んでいましたので、この機会にと思って札幌伝道本部に話を聞かせてくださいという趣旨のはがきを送りました。そのときは、教会に興味があったわけではなく、飛鳥昭雄さんが勧める教会とはどんなところなのか、自分の目で確かめてみたかっただけなのです。

はがきを出して2.3日たった夜の7時

ごろ、二人の青年が、にこにこ顔で、わたしの出したはがきを手にやって来ました。初めて話したときは、変なまないだろうかと警戒していなり、「世の中にこんな善い人たちがいるなんて」という驚きに変わりました。からです。そして、話を聞いてみるたしには宣教師が、天使のように見えなたからです。そして、話を聞いてみることにしました。彼らの話ならに見ることにしました。彼らの話ないという思いと、自分から呼んでいるので断れないという理由からでした。

『モルモン書』が 好きになった日

「戦争ばかりの本。」それが『モルモン書』を読み始めたときの感想でした。しかし、宣教師からイエス様や『モルモン書』への力強い証を聞くことで、日に日に『モルモン書』が好きになり、読むのが楽しくなりました。

しかし、教会に入る気はありませんでした。教会員になって、やっていけるだろうかという不安のほかに、わたしが物心ついたときには、家族で別の宗教に入っていたからです。当然わたしも一緒に通っていました。わたしが教会に入ることは、家族や子供のころから通ってお世話になった人たちを裏切ることになると思ったからです。通っていたと言っても、中学生になってからは、ほとんど行ってはいませんでした。

バプテスマ会での感動

そんなある日、宣教師からバプテスマ会に誘われ、出席する機会がありました。それまでにバプテスマ会は何度好り見たことがあり、バプテスマ会で、たした。その日のバプテスマ会で、ほど胸が熱くなり、安らぎの気持ちと、礼拝堂に聖霊が満ちているのが、まだりました。そのとき「この教会は、今でもでない。で、バプテスマは神の業さんのときの聖霊の力強さは、今でも心に強く残っています。

教会に入りたい。でも、周りの人に何て言えばいいんだろう。まだ不安がそれをしのいでいました。しかし、どんなに不安があっても、そのときままっていた証を、否定することはできまのとでした。教会に行き、兄弟姉妹なのした。教会に行き、兄弟姉妹ななりになりたい」と強く思い、悩んぞいるより、それを解決するために努力にようと決心しました。そして宣教師の助けを得て無事にバプテスマを受けることができました。

わたしがバプテスマを受けた1994年の3月6日は、雪が降り、辺り一面真っ白で、とてもきれいな日でした。受けるまで11か月ほどかかってしまいましたが、バプテスマを受けたときは、まるで母のおなかから出て来たときのよ

ワード新聞『つばさ』 の発行

今は、札幌から旭川の実家に戻り、旭川第二ワードに集っています。わたしは広報の責任で、旭川第二ワードの新聞『つばさ』の発行のためにイラスト、レイアウトを出し、時には取材し記事を書いて、当し、時には取がら福音に添っています。監督から、直由に書いていますので、自由に書いています。毎月、原稿が記が来るのか楽しみにしています。

ワード新聞『つばさ』の目的は、 旭川第二ワードの動きを分かるようにして、個人のつながりを強め ることです。今はあまり教会に集 っていない兄弟姉妹に、あなたが帰っ て来るのをいつまでも待っていますと いうメッセージを送り、安心して教会 に集えるように補助します。端的に言 えば、皆で仲良く、元気に頑張れるように、お手伝いをすることです。

例えば、ホームティーチャーなどが 家庭を訪問するとき、何を言えばよ いのか分からないときに、このワー ド新聞が会話の良いきっかけにな ればうれしいと思って書いていま す。

家族への伝道の一助として

わたしは口下手なので、家族に教会のことを上手に説明できないことが新聞『つばさ』やパンフレットを見てるい、口下手なのを補って説明することにしています。これも弱点を補しています。家族に手渡すとき、自然に「こさいうものを書いているよ」と、で家族も興味を持ってくれて、何かと協力してくれます。

教会に入る前に、あれほど心配していた子供のころから通っていて宗教の人とも、今のところうまくいっています。 みんなわたしがこの教会に入った



ことを知っていますが、ほかの 宗教に対して否定的な見方をしないと ころなので、これまでどおり仲良くし てくれます。

証を分かち合える機会に感謝

証を分かち合えるのは、とてもすばらしい祝福です。小さな証に思えることでも、ほかの人にとっては祈りの答えだったりすることがあります。ほとんどの場合、祈りの答えは聖霊か、だれかを通してもたらされるものだからです。これからも広報の責任を通して、そのような機会を作り、伝道のお手伝いができればと思っています。

まことの教会に出会えたこと, その

さっか けを作ってくれた飛鳥昭雄 さん、高い標準をもって福音を基とし た生活をしているすばらしい兄弟姉 妹、主の業に携わる機会を与えてくだ さったこと、主のみ業を果たそうと努

主が、わたしたちのために死を克服し、罪を贖い、天父のようになるための道を備え、そのための模範を示してくださったことを証します。(ばばのりひと ワード広報委員)

めているすべての兄弟姉妹に心より感

謝します。

これまでの人生で最大の喜び

―「神殿への参入は、

努力して得る特権である」

東京神殿宣教師 川村 明

東京神殿で、主の業に奉仕させていただくようになり、もう9か月が過ぎようとしています。無我夢中で責任を果たしてきましたが、儀式を通して主の御心を感じ、この上ない喜びを感じています。全国の教会から団体で参入される聖徒の皆様のあつい信仰には驚くばかりで、敬意の念を覚えます。

また、主の宮で、全国の兄弟姉妹の証を聞く機会を得て、わたしの霊の糧とさせていただき、身の引きしまる思いがします。主の宮での奉仕の機会を与えてくださった神様に感謝するとともに、参入されるステーク・地方部、およびワード・支部の皆様に心からお礼申し上げます。皆様の献身的な信仰にこたえられるように日夜奉仕に励んでおります。

妻子の改宗に励まされ

わたしが北海道の苦小牧支部でバプテスマを受けたのは、1982年11月23日、60歳のときでした。わたしが20歳になったころ、家族は漁業に従事していて海上で遭難しかけたことがありました。そのとき思わず「神様」と言って大声で助けを求めました。今考えてみますと、当時は神様をあまり意識してはいなかったものの、心の底では神の存在を感じて、自然に出た言葉であったと思います。

その後40年余りを振り返るときに、信仰のあつい家内との出会いにより、神様に目を向けることができたのです。家内は、どん底の生活にあっても、快く人々の面倒をみる人でした。「どうして、家内はこのように他人に親切にできるのだろう」と、わたしはいつも思ったものです。それが現在、神殿に入ることで神の愛の深さを学び、し

みじみと家内の心情がよく分かったのです。

至福の教えにある「あわれみ深い人 たちは、さいわいである、彼らはあわ れみを受けるであろう」(マタイ5:7) という聖句が、徐々にわたしの胸にし みわたってきました。

人生の終局の目標とする主への信仰の道を加速させたのは、子供たちの改宗と、それに続く家内の改宗でした。子供たちと家内が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となったことは、わたしが改宗するうえで力を与えてくれました。わたしも、家内の改宗から2年後に、教理の本質を勉強させていただくことになり、確信をもってバプテスマに踏み切ったのです。

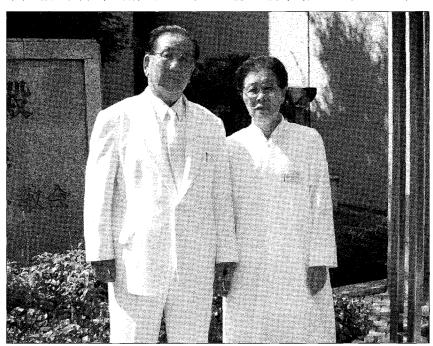
キリシタンの霊を 身近に感じて

神様は、わたしたちに主の宮で奉仕 する機会が得られるように長い期間を かけて準備をさせてくださいました。 今年77歳になり、今は自分の人生の中 で最大の喜びを感じています。また, 主の宮で、イエス・キリスト様の尊 い贖いを理解させていただいていま す。

数百年前のキリシタンの方々の儀式を通して、彼らのキリスト様への純粋な愛と信仰を見るときに、山上の垂訓にある「義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである」(マタイ5:10)とでものである」(マタイ5:10)とでものである」(マタイ5:10)を見い済かべます。主の御名のために殉教者となった彼ら先達の方々は、今この神殿で、この神聖な儀式をすべて終えて、昇栄の鍵を手にし、喜び勇んで主のもとに行ったことでしょう。

神殿での印象的な経験

わたしは、神殿奉仕を通して二つの印象的な経験をしました。一つは、宮で儀式を執行していたときのことです。わたしたちは、洗いの儀式の前にへりくだり、神聖な思いで主に導きを求めました。その代理をしている死者の霊に問いかけた瞬間、わたしの声が変わり体中が熱くなって、何とも言い表せない平安な思いに包まれました。体中にビリビリと閃光が走ったようでもありました。それは、キリシタンの洗いの儀式を行ったときのことです。



川村ご夫妻

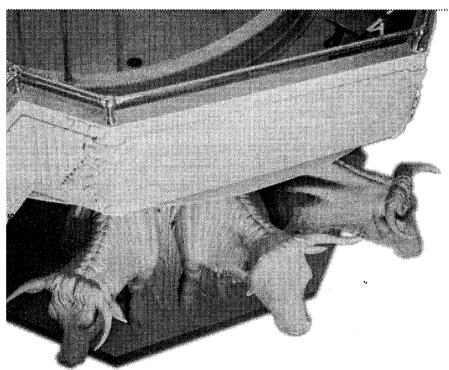
もう一つは、神殿のある場所で儀式 を行っていたときのことです。わたし の目には直接見えませんでしたが、幕 の向こう側には、車いすの女性がいる という強い印象を受けました。それで 儀式を終わってから、幕を広く開けて 通りやすくしました。ところが出て たのは、普通の別の女性でした。わばら くは声も出ませんでした。その女性は、 亡くなられた方の身代わりで儀式を受 けられたのですが、その死者の名前の 方は、確かに車いすのお嬢さんであっ たと確信することができました。

主の宮の儀式なくして, 死者も生者も 昇栄することは不可能

このような数々の経験を通して、霊界の方々は、一日も早く儀式を受けたいと待ちわびていると心に刻まれたのでした。主の宮の儀式なくして、死者

も生者も昇栄することは不可能です。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は「神殿への参入は、努力して得る特権」であると言われました(『聖徒の道』1990年7月号、p.58)。神殿宣教師の一人として、一人でも多くの皆様とお会いできますように心から願っています。(かわむら・あきら 東京東ステーク長生ワード出身、1996年4月任命)



神殿宣教師に召されて

「主を愛し、心から求めることによって、 神様は道を開いてくださいます」—

東京神殿宣教師 川村栄子

わたしが、末日聖徒イエス・キリスト教会の福音を耳にすることができましたのは、5人の子供たちからです。最初は長男からでした。

当時高校生だった長男が、授業中に窓から何かに引きつけられるように外を見ますと、道路を歩いている二人の若い外国人が目に入りました。この二人には、何かがあると思ったそうです。それから何日かして、英語を無料で

教えますという広告を見たので、そこへ友達と二人で行きました。すると、数日前学校の窓から見た二人の外国人がいました。彼らが宣教師であることを知り、やがて息子は英語ではなく、福音を学ぶことになりました。息子は宣教師の語るメッセージが良い教えであることを知り、姉や弟たちを次々と教会へと導いて改宗させました。

様々な宗教を体験して

当時,わたしは病気がちで,入退院 を繰り返していました。医者からも見 放され、先祖代々の仏教に助けを求め ました。わたしの病気は後に治りまし たが、精神的に不安の毎日でした。し かし、その宗教からは何ら平安が得ら れず、その宗教をやめることにしまし た。

1年が過ぎて、また原因不明の病気になり、今度は別の宗教団体のドアをたたきました。3か月の修養を終え、家に帰って参りました。しかし、そこでも心の平安が得られないまま、日々を過ごしました。このように幾つかの宗教などに助けを求めましたが、わたしが求める教えとは違い、自分の霊に永遠の安らぎを得ることができずにいました。

そのころ、子供たちがこの教会の教えを聞くようになり、バプテスマを受けたいと言うようになりました。不安に思ったわたしは、宣教師に家に来てもらって、わたし自身で判断してみたいと思うようになりました。先祖を大切にし、知恵の言葉など、徳高い教えの宗教であると思い、また子供たちにも説得されて、1978年に改宗しました。

系図探求への導き

1980年に東京神殿が建設され、一般公開の運びとなったときでした。娘に連れられ、神殿の中を案内していただく機会がありました。最後にバプテスマフォントに案内され、フォントを支える12頭の白い牛を見たときに、非れまで何度も夢で白い牛を見ていたのです。その真っ白い牛が、目の前にいるのです。娘から「お母さん先祖だよ。夢に現れたのは、お母さんに先

祖が頼んでいるんだよ」と聞かされま した。

わたしは早速, 系図探求に取りかか りました。子供たちと協力して、直系 はすべて調べ終えることができまし た。ある夜,バプテスマを受けた先祖 の方々が(かみしもを着た人や羽織袴を 付けた人, 紋付きを着た人など, 皆き れいに正装をして)わたしの夢 枕に立 ったのです。そして、皆頭を下げて感 謝の気持ちをわたしに伝えてくれまし た。それは、何とも言いようのない喜 びでした。

今まで味わったことのない 安らぎ

この教会の教えがまことであること を, 様々な信仰上の経験を通して知る ことができました。

ある日,一人で『聖書』を読んでい ました。すると、イエス・キリスト様 の清い愛に満たされ、美しい光を強く 感じました。今まで味わったことのな い安らぎを頂いたのです。

これまで、わたしがかかわったどの 宗教からも, このような平安を感じた ことはありませんでした。神様はわた しをそれぞれの宗教を経験させ、まこ との教えへと導いてくださいました。 「求めよ, そうすれば, 与えられるで あろう。| (マタイ7:7) 主を愛し、心 から求めることによって、神様は道を 開いてくださいます。

神殿宣教師の召し

神殿より電話があり、神殿官教師に との召しのお話があったとき、突然の 要請に戸惑いを感じてお断りしまし た。わたしは、先に述べたように、そ れまでに体調を崩し、病院通いをして いました。乳癌の手術をしていて、糖 尿病のほかに心臓も弱く, 血糖値が高 くて、おまけにコレステロールも人の 3倍あり、いつ倒れるか分からないと の診断を受けました。そのような状態 でしたので, 教会も休みがちでした。 もちろん,神殿にも遠ざかっていまし た。そのような理由で,神殿奉仕の責 任を受け入れることができませんでした。

2度、3度と電話がありましたが、断 り続けていました。4度か5度目の電話 だったでしょうか,神殿長は「大丈夫 です。必ず、あなたの病気はよくなり ます」と言われました。そのとき、神 殿長を通して神様の力ある慈愛のこも った声を聞いたかのように, その言葉 はわたしの胸に響いたのです。思わず 「わたしのようないたらない者でも | という言葉が口から出ました。やがて わたしたちは神殿に召され、その日か ら夢中で日々を送ってきました。

「わたしに近づきなさい」

神様は、わたしを助けてくださいま した。神様の助けと、ご加護によって、 体調がどんどんよくなり、最近の診断 でも、すべてに異常がないとのことで した。先生も、どうしてこんなによく なったのかと首をかしげるほどです。 「わたしに近づきなさい。そうすれば、 わたしはあなたに近づこう」(教義と 聖約88:63) とありますが、思い切っ て神様のもとに来て、大きな祝福を頂 いたこと, また奉仕という機会を与え てくださいました神様に心より感謝申 し上げます。

主の宮で奉仕をするとき、神殿がこ の地上で最も望く, えり抜かれた場所 であるとしみじみと感じています。己 を忘れ, ほかの人々に仕える人は, 主 にあってまことの喜びを得るのです。 主人とともに, 残り少ない人生を神様 にささげることができますので、心よ り感謝します。神様は一人一人を愛し ておられます。わたしは、これを証し ます。(かわむら・えいこ 東京東ステ ーク長生ワード出身、1996年4月任命)

神殿宣教師 の紹介

- () 氏名
- ②任命日
- ③出身ユニット



- ①引持辰人、澄子 ②1996年11月
- ③広島ステーク光ワード



- ①森下菖藜,米子 ②1996年11月
- ③高松地方部丸亀支部

新刊のお知らせ





モルモンタバナクル賛美歌Ⅱ(英語)

- ●CD カタログ番号80921
- 59分 全21曲 1,000円
- ●カセットテープ カタログ番号80920
- 59分 全21曲 700円

「神は造り主」(34番)、「いにしえの聖徒の」 (42番)、「天よりの声聞け」(166番)、「高 きに栄えて」(180番)など21曲をタバナク ル合唱団がパイプオルガンを伴奏に歌う。

4月に召された専任宣教師

第210期生 20人



前列左から1~11、後列左から12~20

〈名 前〉

- 1. 石井香奈
- 2. 水野
- 3. 二岡順子
- 4. 林 千晴
- 5. 石田小首合
- 6. 高崎千佳子
- 7. 高崎真千子
- 8. 今井あんな
- 5 + 55 1
- 9. 近藤洋世
- 10. 石坂千恵
- 11. 盂収かゆさ
- 12. 井上 悠
- 13. 藤村謙次郎
- 14. 伊藤則明 15. 石井 宣
- 16. 河田利則
- 17. 松本壮司
- 18. 柿木秀人
- 19. 高江誓詞
- 20. 酒田

〈出身地〉

東京ステーク所沢ワード

東京北ステーク川越ワード

岡山ステーク米子ワード

三重地方部伊勢支部

岡山ステーク米子ワード

秋田地方部横手支部

秋田地方部横手支部

名古屋西ステーク岐阜ワード

名古屋西ステーク御器所ワード

東京ステーク所沢ワード

福岡ステーク福岡ワード

東京ステークひばりヶ丘ワード

仙台ステーク長町ワード

青森地方部大館支部

京都ステーク下鴨ワード

釧路地方部帯広支部

岡山ステーク米子ワード

東京ステーク所沢ワード

東京ステーク三鷹ワード

東京南ステーク洗足池ワード

〈伝道地〉

札幌伝道部 札幌伝道部 福岡伝道部 札幌伝道部 札幌伝道部 岡山伝道部 神戸伝道部 岡山伝道部 岡山伝道部 札幌伝道部 名古屋伝道部 仙台伝道部 東京南伝道部 岡山伝道部 札幌伝道部 福岡伝道部 東京北伝道部 岡山伝道部 札幌伝道部 札幌伝道部

役員の異動

1997年3月15日から1997年4月14日まで に管理本部会員統計記録課に通知のあ った役員の異動(敬称略)

- 仙台ステーク上杉ワード
 監督:中村 修
- ●大阪ステーク関目支部

支部長: Samuel Owen Bennion

- ●大阪堺ステーク泉北支部
 - 支部長:尾崎昭彦
- ●神戸ステーク神戸ワード
- 監督:長浜 修
- 青森地方部大館支部 支部長:田村 誠
- ●盛岡地方部北上支部 支部長:千田勝彦
- 新潟地方部

地方部長:佐藤雄司

- 新潟地方部新潟支部 支部長:木下正也
- 石川地方部

地方部長:徳沢清児

- ●福井地方部武生支部 支部長:和田佳久
- 熊本地方部諫早支部 支部長: 才木 剛

皆さんの原稿を 募集しています

◎ご投稿の際には連絡先(住所,電話番号),教会での責任(役職名),所属ユニット名を記入し,写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただくことがあります。

◎お願い―海外に召される日本人宣 教師を紹介します。伝道の召しを受け 取り次第,編集室に写真を添えてお知 らせください(氏名〔フリガナ〕,伝 道部名,召された月を明記)。

◎あて先: 電106 東京都港区南麻布 5-10-30 末日聖徒イエス・キリス ト教会 『聖徒の道』編集室

€03 (3440) 2666 FAX 03 (3440) 3275

海外に召された日本人宣教師



中村幹夫 アジア北伝道部* 1997年5月 我孫子ステーク北千住ワード出身





湯 川 典 子 ソルトレーク・テンプルスク ウェア訪問者センター伝道部 1997年5月 。 京都ステーク伏見ワード出身